別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画									
事　項	記　入　欄								備　考
計　画　の　区　分	学部の設置								
フ　リ　ガ　ナ 設　置　者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ ﾆﾎﾝｲﾘｮｳﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人 日本医療大学								
フ　リ　ガ　ナ 大　学　の　名　称	ﾆﾎﾝｲﾘｮｳﾀﾞｲｶﾞｸ 日本医療大学（Japan Healthcare University）								
大　学　本　部　の　位　置	北海道札幌市豊平区月寒東３条11丁目１番50号								
大　学　の　目　的	日本医療大学は、教育基本法および学校教育法の定めるところにより、学術の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開できる保健医療福祉分野の人材の育成を目的とする。								
新設学部等の目的	【ヒューマンデザイン学部】 社会福祉学や福祉経営学を基盤とし、保健・医療・福祉および周辺領域において、地域共生社会の実現に向けたライフスタイルや健康・生活支援システムのあり様について教授・研究し、人間の幸福に寄与する社会の姿をデザインできる人材の育成により、わが国ならびに地域社会の発展に寄与することを目的とする。本学部は、「医療ＤＸマネジメント学科」「共生社会デザイン学科」の２学科を設置し、人材の育成をおこなう。 【医療ＤＸマネジメント学科】 福祉経営学の知識体系である情報とマネジメントの専門知識・技能を用いて、医療機関・福祉施設など組織の経営管理、課題解決、サービス開発、地域づくりへの貢献などを通して地域包括ケアを推進し、人々の健康や生活、地域社会をより良い方向に変化させることのできる人材の養成と知の資産の持続的創出を教育研究上の目的とする。 【共生社会デザイン学科】 わが国の「地域共生社会」政策において、(地域)共生社会のあり様やデザインを多角的に思慮しながら分野横断的な福祉サービスを必要とする本人や家族全体をアセスメントし、地域での生活を可能にする「包括的・重層的な支援」に貢献できる人材の養成を目的とし、社会福祉士や精神保健福祉士の国家資格の取得を基本とする。なお、現代の多様化・複雑化する人々のニーズに対応する社会福祉士・精神保健福祉士が、さらに心理学的知識・技術を有することにより、より深い支援対象者理解につながり、その支援の質の向上を志向する学生のために教育課程の充実を図る。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	ヒューマンデザイン学部 【Faculty of Human Centered Design】	年	人	年次 人	人				
	医療ＤＸマネジメント学科 【Department of Healthcare digital transformation and Management】	4	40	—	160	学士 (福祉経営学) (Bachelor of Care Work and Management)	社会学・社会福祉学	令和８年４月第１年次	北海道札幌市豊平区月寒東３条11丁目１番50号
	共生社会デザイン学科 【Department of Social Work and Social Design】	4	80	—	320	学士 (社会福祉学) (Bachelor of Social Work)	社会学・社会福祉学		
	計		120	—	480				
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	総合福祉学部 介護福祉マネジメント学科（廃止）　（▲40） ソーシャルワーク学科（廃止）　（▲80） (注1) 令和８年４月 学生募集停止 (注2) 在学生全員の卒業後に廃止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	ヒューマンデザイン学部 医療ＤＸマネジメント学科	93科目	14科目	0科目	107科目	124単位			
	ヒューマンデザイン学部 共生社会デザイン学科	105科目	23科目	7科目	135科目	124単位			

	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設分	ヒューマンデザイン学部 医療ＤＸマネジメント学科	５人 （５）	２人 （２）	１人 （１）	２人 （２）	10人 (10)	０人 （０）	34人 (17)	
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 （５）	2 （２）	1 （１）	2 （２）	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　８人
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	— （—）	— （—）	— （—）	— （—）	— （—）			
	小計（ａ～ｂ）	5 （５）	2 （２）	1 （１）	2 （２）	10 (10)			
	ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	— （—）	— （—）	— （—）	— （—）	— （—）			
	ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	— （—）	— （—）	— （—）	— （—）	— （—）			
	計（ａ～ｄ）	5 （５）	2 （２）	1 （１）	2 （２）	10 (10)			
	ヒューマンデザイン学部 共生社会デザイン学科	4 （４）	4 （４）	0 （０）	3 （３）	11 (11)	0 （０）	39 (19)	
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 （４）	4 （４）	0 （０）	3 （３）	11 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　８人
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	— （—）	— （—）	— （—）	— （—）	— （—）			
	小計（ａ～ｂ）	4 （４）	4 （４）	0 （０）	3 （３）	11 (11)			
	ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	— （—）	— （—）	— （—）	— （—）	— （—）			
	ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	— （—）	— （—）	— （—）	— （—）	— （—）			
	計（ａ～ｄ）	4 （４）	4 （４）	0 （０）	3 （３）	11 (11)			
	計	9 （９）	6 （６）	1 （１）	5 （５）	21 (21)	0 （０）	— （—）	
既	保健医療学部 看護学科	16 (16)	7 (7)	12 (12)	15 (15)	50 (50)	1 (1)	41 (41)	
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	16 (16)	7 (7)	12 (12)	15 (15)	50 (50)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　12人
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	— （—）	— （—）	— （—）	— （—）	— （—）			
	小計（ａ～ｂ）	16 (16)	7 (7)	12 (12)	15 (15)	50 (50)			
	ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	— （—）	— （—）	— （—）	— （—）	— （—）			
	ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	— （—）	— （—）	— （—）	— （—）	— （—）			
	計（ａ～ｄ）	16 (16)	7 (7)	12 (12)	15 (15)	50 (50)			

保健医療学部 リハビリテーション学科	10 (10)	5 (5)	4 (4)	9 (9)	28 (28)	0 (0)	53 (53)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (10)	5 (5)	4 (4)	9 (9)	28 (28)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　9人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
小計（a～b）	10 (10)	5 (5)	4 (4)	9 (9)	28 (28)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
計（a～d）	10 (10)	5 (5)	4 (4)	9 (9)	28 (28)			
保健医療学部 診療放射線学科	7 (7)	2 (2)	3 (3)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	39 (39)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	2 (2)	3 (3)	2 (2)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　9人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
小計（a～b）	7 (7)	2 (2)	3 (3)	2 (2)	14 (14)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
計（a～d）	7 (7)	2 (2)	3 (3)	2 (2)	14 (14)			
保健医療学部 臨床検査学科	5 (5)	1 (1)	6 (6)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	36 (36)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (5)	1 (1)	6 (6)	1 (1)	13 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
小計（a～b）	5 (5)	1 (1)	6 (6)	1 (1)	13 (13)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
計（a～d）	5 (5)	1 (1)	6 (6)	1 (1)	13 (13)			

設

	保健医療学部 臨床工学科	4 (4)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	9 (9)	1 (1)	62 (62)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (4)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	9 (9)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　６人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
	小計（ａ～ｂ）	4 (4)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	9 (9)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
	計（ａ～ｄ）	4 (4)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	9 (9)			
	通信教育部 総合福祉学部 ソーシャルワーク学科	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	68 (68)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)			大学通信教育設置基準第八条二項に定める基幹教員数の四分の三の数　３人 「大学通信教育設置基準第８条第２項に規程する『昼間又は夜間において授業を行う学部が通信教育を併せ行う場合』」 総合福祉学部ソーシャルワーク学科：基幹教員数10人（教授5人、准教授2人、講師１人、助教２人） ヒューマンデザイン学部共生社会デザイン学科：基幹教員数11人（教授４人、准教授４人、助教３人）
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
	小計（ａ～ｂ）	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
	計（ａ～ｄ）	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)			
分	計	46 (46)	17 (17)	29 (29)	28 (28)	120 (120)	2 (2)	— (—)	
合　　計		54 (54)	24 (24)	30 (30)	33 (33)	141 (141)	2 (2)	— (—)	

職　　種	専　属	その他	計
事務職員	79人 (79)	0人 (0)	79人 (79)
技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
図書館職員	3 (3)	0 (0)	3 (3)
その他の職員	5 (5)	0 (0)	5 (5)
指導補助者	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	87 (87)	0 (0)	87 (87)

校地等	区　分	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体
	校舎敷地	65,249.28㎡	0 ㎡	0 ㎡	65,249.28㎡	■校舎敷地 借用面積：35,418.28㎡ 借用期間：30年 ■その他（運動場用地） 借用面積：9,790.08㎡ 借用期間：30年
	そ の 他	9,790.08㎡	0 ㎡	0 ㎡	9,790.08㎡	
	合　計	75,039.36 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	75,039.36 ㎡	

校　舎	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体
	60,021.16 （ 60,021.16 ㎡）	0 ㎡ （ 0 ㎡）	0 ㎡ （ 0 ㎡）	60,021.16 ㎡ （ 60,021.16 ㎡）	■月寒本キャンパス（１号館） 借用面積：32,273.46㎡ 借用期間：30年 ■月寒本キャンパス（２号館） 借用面積：9,931.69㎡ 借用期間：22年

教室・教員研究室	教　室	219(147)室	教員研究室	160(126)室	大学全体(うち月寒本キャンパス)

図書・設備	新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕 冊	電子図書〔うち外国書〕	学術雑誌〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点
	ヒューマンデザイン学部	1,075〔0〕 (1,075〔0〕)	168〔0〕 (168〔0〕)	13〔0〕 (13〔0〕)	—〔—〕 (—〔—〕)	(—)	(—)
	計	1,075〔0〕 (1,075〔0〕)	168〔0〕 (168〔0〕)	13〔0〕 (13〔0〕)	—〔—〕 (—〔—〕)	(—)	(—)

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	大学全体
	0 ㎡	0 ㎡	1,590.00 ㎡	■講堂(厚生補導施設と兼用)

経費の見積り及び維持方法の概要		区　分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	経費の見積り	教員１人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	—	—	
		共同研究費等		3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	—	—	
		図書購入費	5,027千円	0千円	0千円	0千円	0千円	—	—	
		設備購入費	23,577千円	16,962千円	0千円	0千円	0千円	—	—	
	学生１人当り納付金			第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
		医療ＤＸマネジメント学科		1,600千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	— 千円	— 千円	入学金(初年度)、授業料、施設費
		共生社会デザイン学科		1,200千円	1,200千円	1,200千円	1,200千円	— 千円	— 千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要			寄附金、私立大学等経常費補助金　等						

既設大学等の状況	大学等の名称	日本医療大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所　在　地	
		年	人	年次人	人		倍			
	保健医療学部		510	—	2,020		0.88	平成26	北海道札幌市豊平区月寒東３条11丁目１番50号	令和５年度 入学定員増（20人）
	看護学科	4	150	—	600	学士(看護学)	0.98	平成26	同上	
	リハビリテーション学科	4	140	—	540	学士(リハビリテーション学)	0.85	平成27	同上	
	診療放射線学科	4	100	—	400	学士(診療放射線学)	0.99	平成28	同上	
	臨床検査学科	4	60	—	240	学士(臨床検査学)	1.00	令和３	同上	
	臨床工学科	4	60	—	240	学士(臨床工学)	0.41	令和４	同上	
	総合福祉学部		120	—	480		0.19	令和４	北海道札幌市清田区真栄434番地１	
	介護福祉マネジメント学科	4	40	—	160	学士(福祉経営学)	0.07	令和４	同上	
	ソーシャルワーク学科	4	80	—	320	学士(社会福祉学)	0.25	令和４	同上	
	通信教育部 総合福祉学部 ソーシャルワーク学科	4	100	３年次 100	400 400	学士(社会福祉学)	0.63	令和５	同上	
	大学院　保健医療学研究科		6	—	12		1.25	令和６	北海道札幌市豊平区月寒東３条11丁目１番50号	
	保健医療学専攻（修士課程）	2	6	—	12	修士(保健医療学)	1.25	令和６	同上	
	附属施設の概要	該当なし								

(注)
1　共同学科の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
2　「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」，専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
3「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。
4　私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」，「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
6　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
7　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（ヒューマンデザイン学部医療ＤＸマネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
基礎教育科目	人間と文化	人間の尊厳と自立	2前			2		○								1	
		倫理学	1前			2		○								1	
		文化人類学	2後			2		○								1	
		教育学	2前			2		○								1	
		文学	2後			1		○								1	
		北海道史	1後			1		○								1	
		心理学と心理的支援	1前			2		○								1	
		発達心理学	1後			2		○								1	
		ボランティア活動	1後			1		○								1	
		（小計9科目）	－	－	0	15	0	－			0	0	0	0	0	6	
	人間と社会	法学入門	1後	○	2			○			1						
		政治学入門	2前			1		○								1	
		経済学入門	1後			1		○								1	
		経営学入門	1前	○	1			○			1						
		行政法	2前	○		2		○			1						
		マーケティング入門	1後	○	1			○			1						
		統計学	1前			2		○								1	
		会計学入門	1前	○	2			○				1					
		簿記入門	1後			2		○				1					
		社会学と社会システム	2前			2		○								1	
		家族社会学	3前			2		○								1	
		（小計11科目）	－	－	6	12	0	－			2	1	0	0	0	5	
	健康科学	生活科学	1後			1		○								1	
		健康とスポーツⅠ	1前		1				○							1	
		健康とスポーツⅡ	2前			1			○							1	
		（小計3科目）	－	－	1	2	0	－			0	0	0	0	0	2	
	語学	日本語表現	1前		2			○								1	
		英語Ⅰ（基礎）	1後		2			○								1	
		英語Ⅱ（実践基礎）	2前			2		○								1	
		英語Ⅲ（実践応用）	2後			2		○								1	
		中国語	2前			2		○								1	
		韓国語	1後			2		○								1	
		（小計6科目）	－	－	4	8	0	－			0	0	0	0	0	4	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（ヒューマンデザイン学部医療ＤＸマネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
専門基礎教育科目	社会福祉と情報の基礎	ヒューマンデザイン論	1前	○	2			○			2					2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	1前			2		○								1	
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	1後			2		○								1	
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2前			2		○								1	
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2後			2		○								1	
		薬理学	2前			1		○								1	
		社会保障Ⅰ	2前			2		○								1	
		社会保障Ⅱ	2後			2		○								1	
		権利擁護を支える法制度	3前			2		○			1						
		保健医療と福祉	2後			2		○								1	
		医学概論	1後	○	2			○								1	
		公衆衛生学	2後	○		2		○								1	
		医療ソーシャルワーク論	3前	○		2		○								1	
		ケアマネジメント論	3後			2		○								1	
		リーダー論	4前			2		○								1	
		リハビリテーション論	2前			2		○								3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ICFの理解	2前			1		○								1	
		福祉用具と福祉機器	4前			1		○								1	
		データサイエンス	1後			2		○			1						
		情報リテラシー	1前			2		○						1			
		医療情報概論	1後			2		○						1			
		コンピュータシステム	1前			2		○			1						
		小計（22科目）	－	－	4	37	0	－			4	0	0	1	0	14	
	マネジメントの基礎	医療のしくみ	1前	○	2			○			1			1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地域医療連携とチーム医療	3前	○		2		○			1						
		地域活性化と地域医療	3前	○	2			○			1						
		統計解析	2前			2		○								1	
		会計学Ⅰ	2前	○		2		○				1					
		簿記応用	2前			2		○				1					
		経営戦略	2後	○		2		○						1			
		経営分析論	3前	○		2		○						1			
		小計（8科目）	－	－	4	12	0	－			2	1	0	1	0	1	
	マネジメント理論	医療経済学	3前	○		1		○			1						
		医療流通システム論	2前	○		2		○			1						
		医療マーケティング	2後	○		2		○			1						
		原価計算	2後	○		2		○				1					
		会計学Ⅱ	2後	○		2		○				1					
		監査論	3前			2		○				1					
		医療経営戦略	4前	○		2		○						1			
		組織心理学	4前	○		2		○				1					
		経営管理論	3前	○		2		○								1	
		人的資源管理論	3後	○		2		○				1					
		企業法務	4後			2		○								1	
		小計（11科目）	－	－	0	21	0	－			1	2	0	1	0	2	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（ヒューマンデザイン学部医療ＤＸマネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門教育科目	医療管理と実務	医療管理総論	2前			2		○				1					
		医療安全・臨床倫理	3後			1		○				1					
		医療管理各論Ⅰ	2後			2		○			1						
		医療管理各論Ⅱ	2後			1		○						1			
		医療管理各論Ⅲ	3前			2			○		1	1		1			共同
		医療関連法規	4前			2		○								1	
		診療報酬請求事務Ⅰ	3前			2		○								1	
		診療報酬請求事務Ⅱ	3後			2		○								1	
		こころとからだのしくみ	2前			2		○			1						
		認知症ケア論	4前			2		○			1						
		小計（10科目）	－	－	0	18	0	－			2	1	0	1	0	2	
	医療情報マネジメント	医療DXワークショップA	1前			1			○				1				
		医療DXワークショップB	1後			1			○				1				
		医療DXワークショップC	2前			1			○				1				
		医療情報システム論	2前			2		○			1						
		データベース基礎	2前			2		○						1			
		データベース応用	2後			2		○						1			
		データ構造とアルゴリズム	3前			2		○						1			
		通信ネットワーク	2後			2		○						1			
		情報セキュリティ	3後			2		○						1			
		臨床データ分析Ⅰ	2後			2		○					1				
		臨床データ分析Ⅱ	4前			2		○					1				
		画像情報処理	3後			2		○								1	
		プログラミング演習Ⅰ	2前			2			○		1						
		プログラミング演習Ⅱ	2後			2			○		1						
		AI基礎	3前			2		○			1						
		ユニバーサルデザイン概論	1後			2		○			1						
		ユニバーサルデザイン演習	3通			4			○		1						
		プロジェクトマネジメント	4前			2		○						1			
		小計（18科目）	－	－	0	35	0	－			2	0	1	1	0	1	
	地域マネジメント	事業構想論	1後			1		○								1	
		持続可能社会と地域医療福祉経営	3後	○	2			○			1					1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		サービス産業論	2前			1		○								1	
		地域連携実践	2後	○	2				○		1					1	共同
		ソーシャル・ビジネス	1後			2		○								1	
		小計（5科目）	－	－	4	4	0	－			1	0	0	0	0	2	
	総合科目	基礎演習	1通	○	2				○		2	2	1	2			共同
		専門演習Ⅰ	3通	○	2				○		5	2	1				共同
		専門演習Ⅱ	4通	○	2				○		5	2	1				共同
		卒業研究	4通	○		4			○		5	2	1				共同
		小計（4科目）	－	－	6	4	0	－			5	2	1	2	0	0	
合計（107科目）			－	－	29	168	0	－			5	2	1	2	0	34	

学位又は称号	学士（福祉経営学）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
必修科目29単位、基礎教育科目の選択科目から12単位以上、専門基礎教育科目の選択科目から30単位以上、専門教育科目の選択科目から52単位以上を修得し、124単位以上修得すること。（履修科目の登録の上限45単位（年間））	１学年の学期区分	２ 期
	１学期の授業期間	15 週
	１時限の授業時間	90 分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（ヒューマンデザイン学部共生社会デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
基礎教育科目	人間と文化	人間の尊厳と自立	2前			2		○								1	
		倫理学	1前			2		○								1	
		文化人類学	2後			2		○			1						
		教育学	2前			2		○								1	
		文学	2後			1		○								1	
		北海道史	1後		1			○			1						
		心理学と心理的支援	1前	○	2			○			1						
		発達心理学	1後		2			○			1						
		ボランティア活動	1後		1			○				1					
		健康・医療心理学	4後			2		○						1			
		福祉心理学	4前			2		○			1						
		教育・学校心理学	4前			2		○						1			
		小計（12科目）	－	－	6	15	0	－			3	1	0	1	0	3	
	人間と社会	法学入門	1後		2			○								1	
		政治学入門	2前			1		○								1	
		経済学入門	1後			1		○								1	
		経営学入門	1前			1		○								1	
		行政法	2前			2		○								1	
		マーケティング入門	1後			2		○								1	
		統計学	1前			2		○								1	
		会計学入門	1前			2		○								1	
		簿記入門	1後			2		○								1	
		社会学と社会システム	2前	○	2			○			1					1	
		家族社会学	3前			2		○								1	
		小計（11科目）	－	－	4	15	0	－			1	0	0	0	0	7	
	健康科学	生活科学	1後			1		○								1	
		健康とスポーツⅠ	1前		1				○							1	
		健康とスポーツⅡ	2前			1			○							1	
		小計（3科目）	－	－	1	2	0	－			0	0	0	0	0	2	
	語学	日本語表現	1前		2			○								1	
		英語Ⅰ（基礎）	1後		2			○								1	
		英語Ⅱ（実践基礎）	2前			2		○								1	
		英語Ⅲ（実践応用）	2後			2		○								1	
		中国語	2前			2		○								1	
		韓国語	1後			2		○								1	
		小計（6科目）	－	－	4	8	0	－			0	0	0	0	0	4	

教　育　課　程　等　の　概　要

（ヒューマンデザイン学部共生社会デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門基礎教育科目	社会福祉の基礎	ヒューマンデザイン論	1前	○	2			○				2				2	オムニバス
		共生社会デザイン論	1後	○	2			○			1	2					オムニバス
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	1前	○	2			○				1					
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	1後	○	2			○				1					
		ソーシャルワークの原理	1後	○	2			○			1	1		1			オムニバス
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2前	○	2			○								1	
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2後	○	2			○								1	
		社会保障Ⅰ	2前	○	2			○			1						
		社会保障Ⅱ	2後	○	2			○			1						
		貧困に対する支援	3前	○		2		○								1	
		高齢者福祉	1後	○		2		○				1					
		障害者福祉	1前	○		2		○				1					
		児童・家庭福祉	2後	○		2		○				1					
		権利擁護を支える法制度	3前	○	2			○								1	
		刑事司法と福祉	4前	○		2		○								1	
		保健医療と福祉	2後	○	2			○			1						
		医学概論	1後	○	2			○								1	
		人体の構造と機能及び疾病	2前			2		○								1	
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1前	○	2			○						1			
		社会福祉調査の基礎	2前	○		2		○								1	
		国際医療福祉論	3後			2		○								1	
		公衆衛生学	2後			2		○								1	
		公認心理師の職責	2前			2		○				1					
		臨床心理学概論	2後			2		○			1						
		心理学研究法	3前			2		○				1					
		心理学統計法	3後			2		○						1			
		心理学実験	3前			2			○					1			
		心理的アセスメント	4前			2		○			2			1			オムニバス
		心理学的支援法	3後			2		○			1						
		カウンセリング	2後			2		○			1						
		医療ソーシャルワーク論	3前			2		○			1						
		ケアマネジメント論	3後			2		○								1	
		リーダー論	4前			2		○				1					
		リハビリテーション論	2前		2			○								3	オムニバス
		ICFの理解	2前		1			○								1	
		福祉用具と福祉機器	4前			1			○							1	
		小計（36 科目）	－	－	29	41	0	－			3	4	0	2	0	15	
	医療DX・福祉経営の基礎	医療情報概論	1前			2		○								1	
		医療情報システム論	1後			2		○								1	
		情報リテラシー	1前		2			○								1	
		地域医療連携とチーム医療	3前			2		○								1	
		地域活性化と地域医療	3前			2		○								1	
		福祉サービスの組織と経営	3後	○	2			○								1	
		介護施設経営	4前		2			○								1	
		小計（7科目）	－	－	6	8	0	－			0	0	0	0	0	5	

教　育　課　程　等　の　概　要

（ヒューマンデザイン学部共生社会デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門教育科目	ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	4前	○		2		○				1		1			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1後	○	2			○				1					
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2前	○	2			○				1					
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2後	○		2		○						1			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3前	○		2		○						1			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅴ	3後	○		2		○				1					
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅵ	4前	○		2		○				1					
		精神医学と精神医療Ⅰ	3前	○		2		○								1	
		精神医学と精神医療Ⅱ	3後	○		2		○								1	
		現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	1後	○		2		○				1					
		現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2前	○		2		○				1					
		精神保健福祉の原理Ⅰ	2前	○		2		○				1					
		精神保健福祉の原理Ⅱ	2後	○		2		○						1			
		精神保健福祉制度論	3後	○		2		○				1					
		精神障害リハビリテーション論	4前	○		2		○				1					
		スクールソーシャルワーク論	3前	○		2		○			1						
		知覚・認知心理学	3後			2		○			1						
		学習・言語心理学	3前			2		○				1					
		感情・人格心理学	4前			2		○			1						
		神経・生理心理学	4前			2		○								1	
		社会・集団・家族心理学	3前			2		○			1						
		障害者（児）心理学	3後			2		○			1						
		司法・犯罪心理学	4前			2		○			1						
		産業・組織心理学	4後			2		○						1			
		関係行政論(心理)	4前			2		○			1						
		医療的ケア	4後			2		○								1	
		終末期ケアとソーシャルワーク	4前			2		○								1	
		認知症ケア論	4前			2		○								1	
		小計（28科目）	－	－	4	52	0	－			3	4	0	3	0	5	
	医療DX・福祉管理運営の実践	医療DXワークショップA	1前			1				○						1	
		医療DXワークショップB	1後			1				○						1	
		医療DXワークショップC	2前			1				○						1	
		経営管理論	3前			2		○								1	
		人的資源管理論	3後			2		○								1	
		医療管理総論	2前			2		○								1	
		医療安全・臨床倫理	3後			1		○								1	
		持続可能社会と地域医療福祉経営	3後			2		○								2	オムニバス
		地域連携実践	2後			2			○							2	共同
		ソーシャル・ビジネス	1後			2		○								1	
		小計（10科目）	－	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	5	
	ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前	○	1				○		2	1		1			共同
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	2後	○		2			○		2	1		1			共同
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	3前	○		1			○		2	1		1			共同
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	4後	○		1			○		2	1		1			共同
		ソーシャルワーク演習Ⅴ（精神）	3前	○		1			○			2		1			共同
		ソーシャルワーク演習Ⅵ（精神）	3後	○		1			○			2		1			共同
		ソーシャルワーク演習Ⅶ（精神）	4前	○		1			○			2		1			共同
		スクールソーシャルワーク演習	3後	○		1			○		1						
		心理演習	4前			2			○			1		1			共同
		小計（9科目）	－	－	1	10	0	－			2	4	0	3	0	0	

教　育　課　程　等　の　概　要

（ヒューマンデザイン学部共生社会デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2後	○		1			○		1	1		1			共同
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3通	○		2			○		2	1		1			共同
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（精神）	3後	○		1			○			2		1			共同
		ソーシャルワーク実習指導Ⅳ（精神）	4通	○		2			○			2		1			共同
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	3通	○		6				○	2	1		1			共同
		ソーシャルワーク実習Ⅱ（精神）	4通	○		5				○		2		1			共同
		スクールソーシャルワーク実習指導	4前	○		1			○		1						
		スクールソーシャルワーク実習	4後	○		3				○	1						
		心理実習	4後			2				○		1		1			共同
		小計（9科目）	－	－	0	23	0	－			2	4	0	3	0	0	
	総合科目	基礎演習	1通	○	2				○		4	4		3			共同
		専門演習Ⅰ	3通	○	2				○		4	4					共同
		専門演習Ⅱ	4通	○	2				○		4	4					共同
		卒業研究	4通	○		4			○		4	4					共同
		小計（4科目）	－	－	6	4	0	－			4	4	0	3	0	0	
合計（ 135 科目）			－	－	61	194	0	－			4	4	0	3	0	39	

学位又は称号	学士(社会福祉学)	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
必修科目61単位、基礎教育科目の選択科目から12単位以上、専門基礎教育科目の選択科目から21単位以上、専門教育科目の選択科目から30単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限45単位（年間））	1学年の学期区分	2　期
	1学期の授業期間	15　週
	1時限の授業の標準時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（総合福祉学部介護福祉マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
基礎教育科目	人間と文化	人間関係とコミュニケーションⅠ	1前			2		○				1					
		人間関係とコミュニケーションⅡ	1後			2		○				1					
		人間の尊厳と自立	2前			2		○								1	
		倫理学	1前			2		○								1	
		文化人類学	2後			2		○			1						
		教育学	2前			2		○								1	
		文学	2後			1		○								1	
		北海道史	1後			1		○			1						
		心理学と心理的支援	1前			2		○								1	
		発達心理学	1後			2		○								1	
		ボランティア活動	1後			1		○								1	
		（小計11科目）	－		0	19	0	－			1	1	0	0	0	5	
	人間と社会	法学入門	1後		1			○			1						
		政治学入門	2前			1		○								1	
		経済学入門	1後			1		○								1	
		経営学入門	1前		1			○			1						
		行政法	2前			2		○			1						
		マーケティング入門	1後		2			○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		統計学	1前			2		○			1						
		情報科学	1後			2		○			1						
		会計学入門	1前		2			○				1					
		簿記入門	1後			2		○				1					
		社会学と社会システム	2前			2		○			1						
		家族社会学	3前			2		○								1	
		（小計12科目）	－		6	14	0	－			5	1	0	0	0	3	
	健康科学	生活科学	1後			1		○								1	
		環境科学	1後			1		○								1	
		健康とスポーツⅠ	1前		2				○							1	
		健康とスポーツⅡ	2前			2			○							1	
		（小計4科目）	－		2	4	0	－			0	0	0	0	0	3	
	語学	日本語表現	1前		2				○							1	
		英語Ⅰ（基礎）	1後		2				○							1	
		英語Ⅱ（実践基礎）	2前			2			○							1	
		英語Ⅲ（実践応用）	2後			2			○							1	
		中国語	2前			2			○							1	
		韓国語	1後			2			○							1	
		小計（6科目）	－		4	8	0	－			0	0	0	0	0	4	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（総合福祉学部介護福祉マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
専門基礎教育科目	社会福祉の基礎	医療福祉とマネジメント	1前		2			○			1	1				2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	1前			2		○								1	
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	1後			2		○								1	
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2前			2		○								1	
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2後			2		○								1	
		薬理学	2前			1		○								1	
		社会の理解Ⅰ	2前			2		○				1					
		社会の理解Ⅱ	2後			2		○				1					
		社会保障Ⅰ	2前			2		○								1	
		社会保障Ⅱ	2後			2		○								1	
		保健医療と福祉	2後			2		○								1	
		医学概論	1後		2			○								1	
		国際医療福祉論	3後			2		○								1	
		公衆衛生学	2後			2		○			1						
		認知症の理解Ⅰ	2後			2		○					1				
		認知症の理解Ⅱ	3前			2		○					1				
		障害の理解Ⅰ	3前			2		○						1			
		障害の理解Ⅱ	3後			2		○						1			
		コミュニケーション技術Ⅰ	1後			1			○					1			
		コミュニケーション技術Ⅱ	2前			1			○					1			
		医療ソーシャルワーク論	3前			2		○								1	
		ケアマネジメント論	3後			2		○								1	
		リーダー論	4前			2		○				1					
		リハビリテーション論	2前			2		○								3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ICFの理解	2前			1		○								1	
		福祉用具と福祉機器	4前			1			○							1	
		小計（26科目）	－		4	43	0	－			2	1	1	1	0	13	
	経営の基礎	医療のしくみ	1前			2		○			1			1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地域医療連携とチーム医療	3前			2		○			1						
		地域活性化と地域医療	3前		2			○			1						
		統計解析	2前			2		○			1						
		会計学Ⅰ	2前			2		○				1					
		簿記	2前			2		○				1					
		経営戦略	2後			1			○					1			
		経営分析論	3前			2		○						1			
		福祉サービスの組織と経営	3後		2			○								1	
		介護施設経営	4前		2			○								1	
		小計（10科目）	－		6	13	0	－			3	1	0	1	0	1	
	マネジメント理論	医療経済学	3前			2		○			1					1	
		医療流通システム論	3前			2		○			1						
		医療マーケティング	3後			2		○			1						
		原価計算	2後			2		○								1	
		会計学Ⅱ	2後			2		○				1					
		監査論	3前			2		○				1					
		医療経営戦略	4前			1			○					1			
		組織心理学	4前			2		○				1					
		経営管理論	4後			2		○								1	
		人的資源管理論	4前			2		○				1					
		企業法務	4後			2		○								1	
		小計（11科目）	－		0	21	0	－			1	2	0	1	0	4	
	医療管理と実務	医療管理総論	2後			2		○				1					
		医療管理各論Ⅰ	3前			2		○			1						
		医療管理各論Ⅱ	4前			2		○								1	
		医療管理各論Ⅲ	4後			2			○		1	1					共同
		医療関連法規	4前			2		○								1	
		医療安全・臨床倫理	3後			2		○				1					
		秘書学	3前			2		○								1	
		文書作成技術	3後			2		○								1	
		診療報酬請求事務Ⅰ	3前			2		○								1	
		診療報酬請求事務Ⅱ	3後			2		○								1	
		小計（10科目）	－		0	20	0	－			1	1	0	0	0	4	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（総合福祉学部介護福祉マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
専門教育科目	介護福祉	発達と老化の理解Ⅰ	3前			2		○								1	
		発達と老化の理解Ⅱ	3後			2		○								1	
		こころとからだのしくみⅠ	2前			4		○			1						
		こころとからだのしくみⅡ	2後			4		○			1						
		介護の基本Ⅰ	1後			4		○						1			
		介護の基本Ⅱ	2後			4		○						1			
		介護の基本Ⅲ	3後			4		○						1			
		介護過程Ⅰ	1後			2			○				1				
		介護過程Ⅱ	2前			2			○				1				
		介護過程Ⅲ	3前			1			○				1				
		生活支援技術ⅠA	1前			2			○					1			
		生活支援技術ⅠB	1後			2			○					1			
		生活支援技術ⅡA	2前			4		○						1			
		生活支援技術ⅡB	2後			2		○						1			
		生活支援技術ⅢA	3前			2		○						1			
		生活支援技術ⅢB	3後			4		○						1			
		介護総合演習ⅠA	1後			1			○					2			共同
		介護総合演習ⅠB	3後			1			○					2			共同
		介護総合演習ⅡA	2前			1			○					2			共同
		介護総合演習ⅡB	2後			1			○				1	1			共同
		介護実習Ⅰ型基礎	2前			1				○		1	1	3			共同
		介護実習Ⅰ型応用	4前			1				○		1	1	3			共同
		介護実習Ⅱ型基礎	2後			3				○		1	1	3			共同
		介護実習Ⅱ型応用	3前			5				○		1	1	3			共同
		医療的ケアⅠ	4前			4		○								1	
		医療的ケアⅡ	4後			2			○							1	
		医療的ケアⅢ	4後			1			○							1	
		認知症ケア論	4前			2		○			1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		介護報酬請求事務	4前			2			○							1	
		小計（29科目）	－		0	70	0	－			1	1	1	3	0	4	
	地域マネジメント	事業構想論	3後			2		○			1						
		持続可能社会と地域医療福祉経営	4後		2			○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		サービス産業論	4前			2		○			1						
		地域連携実践	3前			2			○		2						共同
		ソーシャル・ビジネス	4後			2		○								1	
		小計（5科目）			2	8	0	－			2	0	0	0	0	1	
	総合科目	基礎演習	1通		2				○			3	1	4			共同
		専門演習Ⅰ	3通		2				○		6	3	1	1			共同
		専門演習Ⅱ	4通		2				○		6	3	1	1			共同
		卒業研究	4通			4			○		6	3	1	1			共同
		小計（4科目）			6	4	0	－			6	3	1	4	0		
合計（128科目）			－		30	224	0	－			6	3	1	4	0	39	

学位又は称号	学士（福祉経営学）	学位又は学科の分野	福祉経営学

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
必修科目30単位、基礎教育科目の選択科目から12単位以上、専門基礎教育科目の選択科目から30単位以上、専門教育科目の選択科目から52単位以上を修得し、124単位以上修得すること。（履修科目の登録の上限45単位（年間）） （履修科目の登録の上限45単位（年間））	１学年の学期区分	２ 期
	１学期の授業期間	15 週
	１時限の授業時間	90 分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（総合福祉学部ソーシャルワーク学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
基礎教育科目	人間と文化	人間関係とコミュニケーションⅠ	1前			2		○								1	
		人間関係とコミュニケーションⅡ	1後			2		○								1	
		人間の尊厳と自立	2前			2		○								1	
		倫理学	1前			2		○								1	
		文化人類学	2後			2		○								1	
		教育学	2前			2		○								1	
		文学	2後			1		○								1	
		北海道史	1後		1			○								1	
		心理学と心理的支援	1前		2			○								1	
		発達心理学	1後			2		○								1	
		ボランティア活動	1後			1		○			1						
		小計（11科目）	－	－	3	16	0	－			1	0	0	0	0	6	
	人間と社会	法学入門	1後		1			○								1	
		政治学入門	2前			1		○								1	
		経済学入門	1後			1		○								1	
		経営学入門	1前			1		○								1	
		行政法	2前			2		○								1	
		マーケティング入門	1後			2		○								1	
		統計学	1前			2		○								1	
		情報科学	1後			2		○								1	
		会計学入門	1前			2		○								1	
		簿記入門	1後			2		○								1	
		社会学と社会システム	2前		2			○								1	
		家族社会学	3前			2		○			1						
		小計（12科目）	－	－	3	17	0	－			1	0	0	0	0	7	
	健康科学	生活科学	1後			1		○								1	
		環境科学	1後			1		○								1	
		健康とスポーツⅠ	1前		2				○							1	
		健康とスポーツⅡ	2前			2			○							1	
		小計（3科目）	－	－	2	4	0	－			0	0	0	0	0	3	
	語学	日本語表現	1前		2			○								1	
		英語Ⅰ（基礎）	1後		2			○								1	
		英語Ⅱ（実践基礎）	2前			2		○								1	
		英語Ⅲ（実践応用）	2後			2		○								1	
		中国語	2前			2		○								1	
		韓国語	1後			2		○								1	
		小計（6科目）	－	－	4	8	0	－			0	0	0	0	0	4	

教　育　課　程　等　の　概　要

（総合福祉学部ソーシャルワーク学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門基礎教育科目	社会福祉の基礎	医療福祉とマネジメント	1前		2			○			2					2	オムニバス
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	1前		2			○			1						
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	1後		2			○			1						
		ソーシャルワークの原理	1後		2			○								2	オムニバス
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2前		2			○				1				1	
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2後		2			○			1						
		社会保障Ⅰ	2前		2			○			1						
		社会保障Ⅱ	2後		2			○			1						
		貧困に対する支援	3前			2		○								1	
		高齢者福祉	1後			2		○					1				
		障害者福祉	1前			2		○				1				1	
		児童・家庭福祉	2後			2		○			1						
		権利擁護を支える法制度	3前		2			○								1	
		刑事司法と福祉	4前			2		○								1	
		保健医療と福祉	2後		2			○			1						
		医学概論	1後		2			○								1	
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1前		2			○						1			
		社会福祉調査の基礎	2前			2		○								1	
		国際医療福祉論	3後			2		○			1						
		公衆衛生学	2後			2		○								1	
		カウンセリング	2後			2		○								1	
		医療ソーシャルワーク論	3前			2		○			1						
		ケアマネジメント論	3後			2		○								1	
		リーダー論	4前			2		○								1	
		リハビリテーション論	2前		2			○								3	オムニバス
		ICFの理解	2前		1			○								1	
		福祉用具と福祉機器	4前			1			○							1	
		小計（27科目）	－	－	27	25	0	－			4	1	1	1	0	18	
	経営の基礎	地域医療連携とチーム医療	3前			2										1	
		地域活性化と地域医療	3前			2		○								1	
		福祉サービスの組織と経営	3後		2			○			1						
		介護施設経営	4前		2			○								1	
		小計（4科目）	－	－	4	4	0	－			1	0	0	0	0	3	

教　育　課　程　等　の　概　要

（総合福祉学部ソーシャルワーク学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
専門教育科目	ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	4前			2		○			1						
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1後		2			○					1				
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2前		2			○					1				
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2後			2		○						1			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3前			2		○			1						
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅴ	3後			2		○				1					
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅵ	4前			2		○				1					
		精神医学と精神医療Ⅰ	3前		2			○								1	
		精神医学と精神医療Ⅱ	3後		2			○								1	
		現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	1後			2		○								1	
		現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2前			2		○				1				1	
		精神保健福祉の原理Ⅰ	2前			2		○				1				1	
		精神保健福祉の原理Ⅱ	2後			2		○						1			
		精神保健福祉制度論	3後			2		○				1					
		精神障害リハビリテーション論	4前			2		○				1				1	
		医療的ケア	4後			2		○								1	
		終末期ケアとソーシャルワーク	4前			2		○								1	
		認知症ケア論	4前			2		○								2	オムニバス
		小計（18科目）	－	－	8	28	0	－			1	2	1	2	0	8	
	管理運営の実践	経営管理論	3後			2		○								1	
		人的資源管理論	3前			2		○								1	
		医療管理総論	2後			2		○								1	
		医療安全・臨床倫理	3後			2		○								1	
		持続可能社会と地域医療福祉経営	3後			2		○								2	オムニバス
		地域連携実践	3前			2			○							2	共同
		ソーシャル・ビジネス	3後			2		○								1	
		小計（7科目）	－	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	4	
	ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前		1				○		1	1	1	1			共同
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	2後		2				○		1	1	1	1			共同
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	3前		1				○		1	1	1	1			共同
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	4後			1			○		1	1	1	1			共同
		ソーシャルワーク演習Ⅴ（精神）	3前			1			○			2		1			共同
		ソーシャルワーク演習Ⅵ（精神）	3後			1			○			2		1			共同
		ソーシャルワーク演習Ⅶ（精神）	4前			1			○			2		1			共同
		小計（7科目）	－	－	4	4	0	－			1	2	1	2	0	0	
	ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2後			1			○		2	1	1	1			共同
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3通			2			○		3	1	1	1			共同
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（精神）	3後			1			○			2		1			共同
		ソーシャルワーク実習指導Ⅳ（精神）	4通			2			○			2		1			共同
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	3通			6				○	3	1	1	1			共同
		ソーシャルワーク実習Ⅱ（精神）	4通			5				○		2		1			共同
		小計（6科目）	－	－	0	17	0	－			3	2	1	2	0	0	
	総合科目	基礎演習	1通		2				○			2	1	2			共同
		専門演習Ⅰ	3通		2				○		4	2	1				共同
		専門演習Ⅱ	4通		2				○		4	2	1				共同
		卒業研究	4通			4			○		4	2	1				共同
		小計（4科目）	－	－	6	4	0	－			4	2	1	2	0	0	
合計（　106　科目）			－	－	61	141	0	－			5	2	1	2	0	43	

学位又は称号	学士(社会福祉学)	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
必修科目61単位、基礎教育科目の選択科目から12単位以上、専門基礎教育科目の選択科目から21単位以上、専門教育科目の選択科目から30単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限45単位（年間））	1学年の学期区分	2　期
	1学期の授業期間	15　週
	1時限の授業の標準時間	90　分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（ヒューマンデザイン学部医療ＤＸマネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	人間と文化	人間の尊厳と自立		人間の理解を基礎として尊厳の保持と自立について理解し、医療福祉専門職に求められる倫理的課題への対応能力の基礎を養うことを目指す。特に、以下の内容を含むように配意する。①多様性の尊重に対する基本的理解を養う。②福祉理念の歴史を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重および権利擁護の考え方を養う。また、利用者本位の観点から自立の概念、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解する。	
		倫理学		「倫理」とは人が生きていくために価値や規範としての「ありかた」を問い続ける学問である。そして医療はそのなかで「あるべき」姿を追いかけることの困難さを実感し続ける現場である。本科目では「命の倫理」が生まれた歴史的背景を基盤としつつ、前半では医療人としての倫理観を身につけ育てていくのに必要とされる視点や方法について、後半では臨床で必要とされる基本的概念と日常感覚との接点を中心に学修する。	
		文化人類学		「地球市民の基礎教養」といわれる文化人類学は、考現学の一種である。今・ここにあるモノやヒト、ことがらが、文化化された事象を扱う学問である。その目的は異文化理解力を身につけ、他者を深く理解するとともに、自らの文化を客観的にとらえる訓練とする。具体的な事例を、聞き取り調査と参与観察による現地のフィールドワークで収集し、データ化するという特徴があるため、理論の講義はない。	
		教育学		代表的な教育思想とその歴史的背景に焦点を当て、教育は人間が生きる上でどういう意味を持っているのか、また社会の中でどのような役割を果たしているのかという二つの点から考察する。教育の本質を人間の発達と学校教育のあり方（内容と方法）、教育を取り囲む社会、法制度との関連で明らかにする。新学習指導要領に伴う大きな変化をふまえて、題材は「教育の課程と方法」を中心にして講義する。	
		文学		主に日本文学に限定し、今なお影響力を持ち、我々の行く末を照らしてくれている文学作品を精読、分析する。さらに、現代には、ボブ・ディランの歌詞がノーベル文学賞を取ったり、Twitterのつぶやきが小説になったりと時代とともに文学の形態は変わってきており、そうした時代の変化についても学修する。	
		北海道史		本講義は、北海道の近現代史を毎回別の歴史的事項を通して理解する。これまで学んできた通史としての歴史ではなく、曾祖父母、あるいは祖父母世代が経験したかもしれない風景に端を発し、その今に至るまでの経緯を学ぶ。受講する学生は興味を持った歴史的事項を自らのテーマとし、その課題に沿った情報の収集や、そのために教員が作成した副読冊子をガイドブックとして視察、見学などの自学自習に取り組む。	

	心理学と心理的支援		社会福祉領域において必要とされる基本的な心理学理論と心理学的援助技法について学ぶ。具体的には、「心理学の視点」「人の心の基本的な仕組みと機能」「人の心の発達過程」「日常生活と心の健康」「心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本」「ソーシャルワークと心理学」を理解する。	
	発達心理学		本講義では、乳幼児期から老年期までの発達の過程を取り扱う。人の発達の概念と発達を形成する諸要素および影響要因、また、ピアジェ、フロイト、エリクソンなどの発達理論を学修し、各発達段階における特徴的な行動や発達課題について学び、人の発達の一般的特徴について理解する。また、パーソナリティ形成への影響、行動との関連についての学修から、各個人の発達の特徴を理解する。これらを通し、他者の発達を見通す力をつけ、さらに、各発達段階に特徴的な発達の危機を理解し、そこからの脱却についても考え、深める。	
	ボランティア活動		21世紀の地域共生社会の構築に向けた課題の一つは、ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンを理念とした地域福祉の推進である。この地域福祉の推進の主体は、地域住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者、そしてボランティアやNPOなど社会福祉に関する活動を行う者である。そして地域福祉は住民参加を不可欠とする。このボランティア活動は今日の住民参加の一形態である。ついては、21世紀の私たちの生活のしづらさを支援する地域福祉の推進に向けて、社会福祉の基本法である社会福祉法の趣旨に依拠しつつ、実践論的な視点からボランティア活動を検討し実際活動に結びつけられることをねらいとする。	
	法学入門	○	法は我々の社会生活に深く関わっている。たとえば、大学生が、大学へ通学する際に公共交通機関を利用し（運送契約）、店で弁当を買い（売買契約）、大学の教室で講義を受ける（在学契約）だけでも複数の法律関係（ここでは契約関係）が存在している。もはや我々は生活する上で法と無関係ではいられず、それゆえ、社会に生きる者として法を学ぶことが必要不可欠であり、生活と関連させながら法を学修する。	
	政治学入門		どんな分野においても、世の中の仕組みを作っていく政治と無関心ではいられない。政治とは利害調整の仕組みともいえる。政治学の基礎を学ぶことで、そうした仕組みを理解し、世の中の諸問題を考察し、分析する力を養うことを目指す。特に、医療福祉において本人支援に必要な自由主義や民主主義の概念の知識修得を目指す。	
	経済学入門		経済学を初めて学ぶ学生を対象とし、平易にその内容を紹介する。基礎的な知識の理解となるよう、経済学の学修に必須となる用語、概念、理論について学ぶ。特に、経済理論の一分野であるミクロ経済学を取り上げ、市場、生産、消費、競争など主要な要件に関連する知識を教授し、企業経営と関連させ理解を促す。	
	経営学入門	○	マネジメント分野の諸課題を理解するために、一般的な経営理論を学び、福祉経営に必要となる基礎的なマネジメント概念を修得させる。「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」等から構成される事業のゴーイング・コンサーン（存続・発展）に対する思考の整理ができるよう、代表的な事例を用いて、マネジメントの概要について理解させる。	

基礎教育科目	人間と社会	行政法	○	行政法は、行政と私人の間や行政と行政の間を規律する法である。ところで、今日の我々の生活は、様々な場面で行政に依存して成り立っており、さらに民間企業の事業活動にも行政が大幅に介入しているわけで、その意味で、行政法は我々の日常生活に深く関わる法なのである。そこで本授業では、我々の生活や企業の活動において生じる法的問題に行政法がどのように対処しているかを、裁判例や学説を通して学ぶ。	
		マーケティング入門	○	マネジメント分野の諸課題を理解するため、マーケティングの基本理論を中心に解説。前半はマーケティング・ミックスの4Pの解説。後半は、ソーシャルマーケティングを中心に、サービスや関係性マーケティングの手法をケーススタディーにより福祉経営施設でのマーケティング事象を分析・理解できる能力を高め、グループで討論し、成果の相互評価を実施して科目の理解を深めさせる。	
		統計学		統計学は根拠に基づく医療(Evidence based medicine)を担う基盤科目である。データの集計・解析を通して、変数間の関連を整理し因果関係を推論する力は、保健医療福祉専門職にとって必須の資質となる。本講義は、①調査、臨床、研究によって得られたデータを集計し要約する（記述統計学）、②検定統計量を算出しそれをもとに関連を吟味する（推測統計学）、という統計学の主要概念を学ぶことを目的としている。代表値、平均・分散、標準偏差、信頼区間、有意水準などの指標に習熟し、仮説検定の判定手順についても理解する。統計調査の企画実施における倫理規定の遵守や個人情報の保護についての認識を深める。	
		会計学入門	○	会計は社会を定量的に見る重要なツールである。この授業では会計がどのように社会に役に立ち、重要性を持つか学修する。入門となるためそれぞれの分野には深く踏み込まないが、全体像の把握と社会における役割という点を重視して授業を行う。	
		簿記入門		簿記は帳簿に記入するためのルールを定めたものである。会社などの組織は、その活動から生じるいろいろな事柄を整然と記録し、その利害関係者に経営成績や財政状態を明らかにしなければならないが、今日の複式簿記はこれら会計情報を作成する上の手段として欠くことができないものである。この授業は、簿記の基礎と位置づけ、簿記の仕組みと会計的思考の裏付けとなる考え方について学ぶ。	
		社会学と社会システム		人は弱者戦略として群れを作る動物である。ただ群れるだけなら集団だが、何らかのシンボルのもとに群れる、関係性や秩序が生まれるならそれは社会である。教科書がないと言われてきた社会学は挑戦的でおもしろい学問で、社会全体を丸ごとその考察の対象としている。講義形式の授業とFormsを利用した学習成果の確認によって、広範囲で多様なこの学問の各事項を効果的に学んでいく。	
		家族社会学		家族は長い間、人々にとって最も身近で基礎的な集団として、私たちの生き方を強く規制してきたが、いま大きく揺れ動き、その存在自体が問われるようになってきている。本講義では、変動しつつある家族の現状を理解するとともに、そのような変化をもたらしている要因について理解し、これからの家族のあり方について展望し、考えていくものである。	

健康科学	生活科学		生活環境のあり方を科学的にとらえ、より良い環境をつくり出す基礎を学ぶ。社会と生活に対する理解を深め、知識や実践を福祉サービスを必要としている人への支援につなげられるようにする。	
	健康とスポーツⅠ		スポーツを通して身体を動かす楽しさを知る。また、高齢化が進む現代社会における、様々な健康阻害要因について学び、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解する。さらに、身体能力の向上や疲労回復・ストレス発散を目的とした運動・スポーツについても理解を深め、運動・スポーツのあり方と実践的な指導方法および評価法についても学修する。文化・ ツールとしてのスポーツについて理解し、社会の中でスポーツがどう役立っているかを学ぶ。	
	健康とスポーツⅡ		「健康とスポーツⅠ」で学んだ身体を動かす楽しさをもとに、グループワークを含めながら、子どもから高齢者、障害者、ストレスを抱える現代人が、どのように運動と関われればよいか、より深く学ぶ。さらに、散歩、体力づくり、ストレッチ、柔軟体操、野外活動など、リラクゼーションのあり方についても知見や体験を深め、健康であるために運動とスポーツがどのように関わるべきかを理解する。	
語学	日本語表現		本科目の目的は、広く社会に通用する基本的な言語表現力を身につけることにある。コース前半では、「文書作成の技術」と題し、大学での学修に不可欠な文書作成技法について学ぶ。社会一般的なルールに加え、作法なども学修の視野に入れる。コース後半では、「日本語力を磨こう」と題し、場面に応じたわかりやすい日本語表現について学ぶ。なお本授業では、グループワークや相互チェックなど演習型の教室内活動を多く取り入れる。	
	英語Ⅰ(基礎)		医療に関する様々なトピックを英文で読み、基礎的な読解力を高める。英文を正確に読むためのスキルを身に付け、論理的に要約し、伝達することを目的とする。社会、心理など様々な視点から問題をとらえ、いろいろな英文を読むことで、単語理解や、語彙力の向上、読解力の養成を目指す。外国の社会や文化、外国人の価値観などを知る機会となり、異文化交流の動機付けとなり、今後の語学学修のモチベーションとなることを期待する。授業の初めには、新聞記事を読み、VOAのニュースやNHK World English Newsなどから、最新のニュースのリスニングを行う。	
	英語Ⅱ(実践基礎)		ロールプレイ、ペアワークなどで場面を想定して英語の修得を目指す。英語について考えること、発音練習、会話によるコミュニケーションが重視される。英語を話すときに自文化について考え、他文化への理解を深める。言葉によるコミュニケーションと言葉によらないコミュニケーションの両方に取り組む。	
	英語Ⅲ（実践応用）		保健医療福祉分野における英文文献を教材として、正確に、論理的・批判的に読解する能力を身に付け、論文の内容を要約できることを目的とする。グループ抄読を通して、英文や論文内容の解釈についてディスカッションすることで、英文文献抄読を主体的に学修するための基礎的能力を育成することを目的とする。	

		中国語		隣国である中国とは、人事交流をはじめとして、経済・文化などすべての面で交流が盛んになっている。医療のグローバル化に向けて、国際的な動向をコミュニケーションをとおして理解することはきわめて重要である。本授業では、中国語の基礎や簡単な会話を学びつつ、現代中国の社会や文化についての理解を図る。異文化理解および外国語学習に意欲をもった履修を強く求めたい。	
		韓国語		隣国である韓国とは、人事交流をはじめとして、経済・文化などすべての面で国家間交流が盛んになっている。医療のグローバル化に向けて、国際的な看護の動向を知り、コミュニケーションをとおして理解することは重要である。そのため、本教科では韓国語の文字、発音など基礎的なことから日常生活で使う簡単な会話と読解能力を育成することを目的とする。また、本講義では韓国語をより上達させるため、コミュニケーションの背景知識になる韓流ドラマ・K-pop・動画などを活かし、韓国の社会や文化などを紹介し、理解を深める。	
		ヒューマンデザイン論	○	人々や社会の課題解決とニーズに基づいた社会資源の創発を目的とした人間中心のデザインのプロセスを、ICTの活用、組織のマネジメント、保健・医療・福祉サービス、地域創生の各事例において総合的に学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (5　照井 レナ/5回) 「①イントロダクション、⑤⑥組織のマネジメントとデザイン、⑬⑭地域創生・コミュニティデザイン」を担当する。 (4　赤津 裕子/3回) 「②③④人間中心デザイン・デザイン思考」を担当する。 (18　金 文美/4回) 「⑦⑧⑨保健・医療・福祉サービスとデザイン、⑮総括」を担当する。 (19　辻 由依/3回) 「⑩⑪⑫保健・医療・福祉サービスデザイン」を担当する。	オムニバス方式
		社会福祉の原理と政策Ⅰ		現代社会ではさまざまな社会変動が起き、それに連動して生活問題や福祉ニーズも多様化・複雑化・複層化が進んでいる。そのなかで、本授業は社会福祉の原理と政策について多角的に考察し、現代社会における福祉問題を解決するための基礎を築くことを目標とする。特に、原理、歴史、思想、理論、社会問題と社会構造、福祉政策の基本的な視点に焦点をあてて学ぶ。	
		社会福祉の原理と政策Ⅱ		社会福祉の原理と政策Ⅰで学んだことをもとに、本講義では、福祉専門職として福祉問題を解決していくための体系的な理論と技術を身につけることを目標とする。現代にある社会的問題の解決に取り組むにあたっての基礎（社会福祉学的な想像力）を身につけることも目指す。特に、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の動向と課題、福祉サービスの供給と利用過程を中心に学ぶ。	

	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ		社会福祉法の第１条において、「地域における社会福祉の推進」と記述され、それを受けて、第4条は地域福祉の推進について記述されているほど、今日、社会福祉における地域福祉の概念は重要とされている。それに呼応するように、新たな地域福祉の推進事業が国から示されている。そこで、本講義では、地域福祉の歴史、考え方、理論について概説し、地域福祉を支える社会資源をそれぞれ紐解くことで、有機的な連携の方法と地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムをはじめとする包括的支援体制について、地域の各層ごとに構築する必要性を学ぶ。	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ		地域福祉を推進するために、福祉行財政の実施体制、福祉計画の意義・目的、包括的支援体制の考え方、多職種連携および多機関協働、地域生活課題の変化と現状を踏まえる。そのうえで、包括的支援体制における社会福祉士などの役割を理解する。特に、社会福祉士などの作成参画が今後期待されている福祉計画に重点を置き、地域福祉計画と地域活動計画、医療との連携について理解を深める。	
	薬理学		薬物療法が必要な患者に対し、疾病の治癒・生活力回復の促進、対象者自身の服薬管理能力向上のための薬剤知識を習得するために、障害機能別の薬剤療法と使用法の注意点の知識と、薬剤相互作用などの知識を学ぶ。	
	社会保障Ⅰ		社会保障の歴史・理念・機能・構造・財源などの基盤を捉え、年金・医療保険・介護保険・労働保険・社会保険・民間保険といった各制度の概要と現状を理解する。また、各国における社会保険の課題を踏まえた上で、わが国の今日的課題について講義する。社会保障Ⅰでは、主に今日的社会保障の動向、わが国と諸外国の社会保障の歴史、理念、概念、役割、社会保障の財源および公的保険と民間保険の関係について学ぶ。	
	社会保障Ⅱ		社会保障Ⅰでの学びをもとに、主に年金、医療保険、介護保険、労働保険、社会保険、民間保険の概要と児童福祉、障害者福祉、社会手当制度の概要、諸外国社会保障制度の概要を学ぶことで、わが国の社会保障制度の現状と課題についても理解を深め、社会保障制度の今後のあるべき姿をも含めて考える力を涵養することを目指す。	
	権利擁護を支える法制度		社会福祉従事者の仕事は、身体的・精神的な衰えがある人々を援助することであり、そこでは、①援助を必要とする人々のことを理解して相手の立場に立って物事を考えること、②身体的・精神的な衰えがあったとしても人は対等・平等であるという人権意識を持って福祉活動の際に起こりうる人権侵害を予防することが重要となる。本授業では、権利擁護を支えるしくみ、特に成年後見に関わる法制度を学び、その背後にある人権意識を学ぶ。	
	保健医療と福祉		わが国の保健医療サービスはいつでも安心して医療を受けられる国民皆保険によって支えられてきた。しかし、少子高齢社会の急速な進行とともに、医療法、医療保険制度、診療報酬制度等は様々に変更されている。わが国の保健医療サービスは歴史的な経緯を踏まえてかなり特徴的である。その特徴と、医療現場の現状や医療・保健分野の仕組みとチーム医療を理解し、さらに保健医療サービスを患者・家族へ届けてきた医療ソーシャルワーカーの役割・機能について理解する。	

	社会福祉と情報の基礎	医学概論	○	医学概論では、「人の生涯にわたる成長と発達と老化の変化の特徴」「身体構造と心身の機能と題した人体の解剖学・生理学」「福祉業務において、関係する疾病や障害について」「リハビリテーション、国際生活機能分類、健康の捉え方」について講義をする。	
		公衆衛生学	○	公衆衛生の原義は、「すべての人の生命と生活を守る」ことである。公衆衛生学は、保健・医療・福祉を包括する総合科目であり、この分野の専門職が連携共同するために必要不可欠な共通言語である。本講義は疾病・障害の予防、健康の保持・増進を社会として達成するための基本的な考え方と歴史的経緯、制度を学ぶことを目的としている。公衆衛生を支える基礎科学である疫学、統計学の知識および技術の基礎を理解、修得し、あわせて公衆衛生活動に関わる計画や評価に必須な手法（地域アセスメント、保健計画策定）の基礎についても学ぶ。	
		医療ソーシャルワーク論	○	疾病構造の変化、医学・医療技術の急激な進歩により、わが国の医療を取り巻く環境も激変してきている。このような状況の下、保健医療分野の専門職として、病院、在宅医療などにおける医療ソーシャルワーカーの役割への期待が高まっている。この講義では、医療福祉の歴史を踏まえ、医療ソーシャルワーカーの業務・役割・機能について理解する。	
		ケアマネジメント論		わが国では介護保険制度や障がい者制度を契機に、「ケアマネジメント」という用語は定着してきた。人々が地域による見守りや支援を受けながら、望ましい生活の維持のためのさまざまな複合的な課題に対して、生活の目標とそのための課題解決に至る道筋と方向を明らかにし、地域にある資源を活用し、総合的かつ効率的に課題解決を図っていくプロセスと、それを支えるシステムといえる。地域福祉実践を進めるうえで、個別のニーズに対する直接的で包括的なアプローチだけでなく、チームアプローチに必要な保健・医療・福祉の連携のあり方やサービス提供のシステム、福祉サービス運営管理のあり方など、地域包括ケアが目指す福祉コミュニティの構築が求められる。福祉サービス利用者が地域社会の中で自立した生活を営むことができるような支援について、資源開発なども含めて学ぶ。	
		リーダー論		対人支援の専門職として、利用者の望む生活を実現するためには、専門職個人の力だけではなく、チームとして力を発揮することが求められる。チームを牽引するリーダーの役割は大きく、人材育成と能力を結集して、チームが掲げる目標を成し遂げることにある。利用者の意向を尊重しつつ、生活ニーズを充足するための支援目標に焦点をあて、チーム全体をコーディネートする。リーダーは人材育成、組織をマネジメントする力が求められる。そのためには、チームメンバーや利用者の声に傾聴し、ニーズを捉える判断力と的確な伝達力、人材育成のためのスーパービジョン、リーダー自身の感情コントロール、さらには自己研鑽を積む必要がある。本科目では、リーダーとしての資質・役割を学修するとともに、チームとしての力を発揮するための基礎を修得する。	

専門基礎教育科目		リハビリテーション論		リハビリテーションサービスは、心身に障害を持たれた方に複数の専門職により提供される。特に複雑な課題をもつケースへの支援の場合、福祉専門職はリハビリテーションチームの中でも欠かせない役割を果たす。本講義の中では、まずリハビリテーションの理念を歴史的背景から学ぶ。次に健康や障害の概念、また障害の種類や程度に応じた各種のリハビリテーションおよび地域におけるリハビリテーションの役割について理解し、障害を持たれた方に対するチームアプローチの中で福祉専門職に求められる機能と役割について理解する。最後に超高齢社会のわが国における地域包括ケアシステムの概要について学び、利用者へのより良いサービス提供について考えていく。 (オムニバス方式/全15回) (23　太田　誠/5回) 「①②イントロダクション、⑬～⑮これからの総括」を担当する。 (24　向井 康詞5回) 「③～⑦理学療法士の立場からのリハビリテーション」を担当する。 (25　大堀 具視/5回) 「⑧～⑫作業療法士の立場からのリハビリテーション」を担当する。	オムニバス方式
		ICFの理解		ICF（国際生活機能分類）についての理解を深め、人を支援する専門職として必須である「人が生きるということ」を総合的に理解し、アセスメントやケースの考察、多職種とのコミュニケーションにおける生活機能の定義や表現など支援への活用を学ぶ。具体的には、ICF成立に至る過程の中で「障害」や「人が生きること」がどのようにとらえられてきたかの考察を入口に、「分類」としてのICFに触れつつ、主にはそこに示される「社会生活モデル」の考え方を中心に理解を深める。各自の目指す専門性に基づいた支援アプローチの中で、ICFそして「社会生活モデル」を基礎とする思考ができ、活用できる能力を身につけることを目的とする。	
		福祉用具と福祉機器		福祉用具（機器・介護ロボット含む）は、福祉用具法において、「心身の機能が低下し、日常生活を営むのに支障のある老人または心身障害者の日常生活の便宜を図るための用具およびこれらの者の機能訓練のための用具並びに補装具」を総称するものと定義されているが、介護保険法での福祉用具の給付と貸与制度が加わり、福祉用具の範囲も拡張し、また、ロボット産業政策として介護ロボットの開発も進められている。また、日本における介護ニーズの急増や人手不足、担い手の負担軽減や介護の質の確保・向上のための福祉用具の利活用が進められている。本講義では、福祉用具の定義と種類、知識や技術、利用者のADL等の改善や介護負担軽減などの福祉用具の役割や利活用について学ぶ。	

	データサイエンス		データサイエンスは、大量のデータを解析し、有益な情報を抽出する学問である。本科目では、特に医療・介護福祉分野に焦点を当て、高齢化社会におけるサービス向上を目指す。まず、データサイエンスの基本概念や統計学、データ収集・分析手法、可視化技術を学び、医療・介護現場での実践的なデータ解析を深める。具体的には、利用者の健康データを分析し、最適なケアを判断するアルゴリズムの構築を目指す。さらに、機械学習や人工知能（AI）の基本概念にも触れ、効率的なサービス提供や個別ケアプランの策定に貢献する技術を学ぶ。また、データ利用に伴う倫理的問題として、プライバシー保護やデータの正確性についても考慮し、法的規制を学ぶ。この科目を通じて、医療・介護現場でのデータに基づく意思決定能力を身につけ、最適なケアを提供することで、全体の運営効率向上が期待される。	
	情報リテラシー		情報リテラシーは、現代社会において情報を効果的に収集、評価、活用する能力を養成する科目である。特に医療・介護福祉分野では、正確な情報の選別と活用が求められる。新設学科では、インターネットやデータベースを用いて迅速かつ正確に情報を収集する技術を学び、法規制やガイドラインの更新に対応する力を育成する。また、収集した情報の信頼性を評価するスキルも重視される。誤った情報やバイアスを避けるため、信頼できる情報源の選別方法を習得する。さらに、プレゼンテーションや文書作成、表計算ソフトの活用法を学び、効果的なコミュニケーション能力を養う。倫理的な問題についても学び、個人情報保護や情報の適正利用について理解を深めることで、トラブルの未然防止を目指す。この科目を修了することで、情報に基づく意思決定を行い、医療・介護福祉の実務に貢献できる力を身につけることができる。	
	医療情報概論		医療情報概論は、医療・福祉分野における情報管理と活用の基礎を学ぶ科目である。現代医療システムにおける情報技術の役割や、情報の適切な管理方法を理解することが求められる。医療情報には患者の診療記録や検査結果などが含まれ、治療やケアの質を高めるために不可欠である。この科目では、電子カルテ（EHR）の基本構造や運用方法、プライバシー保護の対策を学ぶ。電子カルテは情報の一元化やデータ共有を可能にし、医療の質向上に寄与する。また、医療情報のセキュリティとプライバシー保護の重要性も扱い、適切な保護手段や情報漏洩リスクについて理解を深める。さらに、医療情報の標準化や情報共有の重要性について学び、国際標準規格（例：HL7、DICOM）や地域連携ネットワークの活用方法を理解する。この科目を修了することで、医療情報の基本的な概念やその重要性を理解し、実践に応用できるスキルを身につける。	
	コンピュータシステム		この科目では、現代の医療・介護福祉におけるコンピュータシステムの基本構造と動作原理を学ぶ。主にハードウェア（中央処理装置、メモリ、ストレージ、入出力デバイス）の相互作用や情報処理の仕組みを理解し、医療・介護分野での運用やトラブルシューティングに必要な知識を習得する。オペレーティングシステム（OS）の役割や一般的なOSの機能（プロセス管理、メモリ管理、ファイルシステム）も学び、専用ソフトウェアとの連携を理解する。さらに、ソフトウェアのライフサイクル（開発、テスト、デプロイ、メンテナンス）やミドルウェアについても触れる。ネットワーク技術の基礎（LAN、WAN、TCP/IPなど）やネットワークセキュリティも学び、システム保守とトラブルシューティングの知識を提供する。これにより、ITを活用して医療・介護サービスの質向上に寄与できる能力を身につける。	

マネジメントの基礎	医療のしくみ	○	地域包括ケアシステムの中の医療サービスの位置づけを学び、それらと関連する福祉連携のしくみを含む医療政策、医療制度について理解を深め、医療施設運営管理の基盤となる医療のしくみについて理解する。医療経営の歴史的背景から超高齢社会となった現代の医療サービスをとりまく外部環境との関連において、現代社会における医療サービスの重要性を認識し、それに従事することの使命感を涵養する。 （オムニバス方式/全15回） （10　坂野 大樹/6回） 1回～6回：医療におけるマクロ的視点（制度、機関の役割など）について概説する。 （5　照井]レナ/9回） 7回～14回：発達各期に特徴的な疾患の事例について、治療、社会資源の利活用などミクロ的視点で学ぶ。 15回：最終的に学びを統合し医療のしくみについてまとめる。	オムニバス方式
	地域医療連携とチーム医療	○	超高齢社会となった我が国の地域医療政策における重要な基本概念である「地域包括ケアシステム」と、その人らしい生活を可能にする療養者を中心としたチームにおける専門職の役割と機能について理解する。それらの知識をもとに、多職種によるチームビルディングと連携のしくみづくり、カンファレンス、チームによるサービス供給のマネジメントや地域住民の健康福祉に貢献するための方策について実践的に学ぶ。	
	地域活性化と地域医療	○	地域の抱える医療の問題点を地域社会学的視点から考察し、解決策としての、活性化策を策定させる。マネジメント分野で修得した基礎科目の知識を有機的に活用させ、事例を用いて地域医療の重層的課題の抽出と解決策を策定させる。これにより既修科目の有用性と応用性を理解させ、今後の就学の方向性を学生が見出せるよう指導する。アクティブ･ラーニングに向けて自ら課題の抽出と解決策を構築させる問題解決型学習（P B L）を実施できるよう指導する。	
	統計解析		統計解析は根拠に基づく医療（EBM）を推進する上で基幹となる解析技術である。データの集計・解析を通して、科学的、客観的に事象を捉える能力を涵養することは、保健医療福祉専門職の育成にとって重要な課題となる。 本講義は、①所与のデータを集計・要約し記述統計量を算出する、②設定された作業仮説を最適な統計手法を用いて検定する、③単変量・多変量解析法を併用駆使する、という広範な統計処理に習熟することを目的としている。 統計図表（ヒストグラム、箱ひげ図、散布図など）、単変量解析（ｔ検定、χ1検定など）、多変量解析（多重比較、分散分析、ロジスティック回帰分析など）の要諦を理解し、臨床現場で実際に活用できる能力と姿勢を培う。	
	会計学Ⅰ	○	「会計学入門」を入門編、「会計学Ⅰ」を基礎編、「会計学Ⅱ」を応用編と位置付けているため、併せて履修することを推奨する。本講義は会計入門の履修を前提に、組織が経営活動を会計上どのように記録し、財務諸表という形に要約していくのかを学修する。後半の講義では前半の講義を前提に、財務諸表を利用した経営組織の分析方法について学修し、会計情報を組織マネジメントにいかに役立たせるかについて学ぶ。	

		簿記応用		簿記は、帳簿に記入するためのルールを定めたものであり、「帳簿記入」からつくられた言葉といわれている。会社などの組織は、活動から生じる様々な事柄を整然と記録し、利害関係者に経営成績や財政状態を明らかにしなければならないが、今日の複式簿記はこれら会計情報を作成する上の手段として欠くことができないものである。授業では簿記の応用期と位置づけ、規模の大きい会社を中心とした財務諸表を作成することを学ぶ。	
		経営戦略	○	急性期医療機関経営を模したビジネスゲーム【医療経営MX】を使用する2日間×2回(計4日)の集中講義にて、“ヒト・モノ・カネ・情報”への投資の意思決定などの医療機関マネジメントを体験しながら、自分の手で損益計算書や貸借対照表を作成し、財務諸表の仕組みや管理会計に触れることで、会計情報と経営戦略立案の考え方を理解し、経営関連科目を効率的に学ぶための素養を身につける。	
		経営分析論	○	財務分析、戦略分析、マーケティング分析に加え、公開されているDPCデータの分析など、企業や医療機関の経営に用いる具体的手法を紹介し、各分析手法を理解する。また、それらを多角的・総合的に検討することを通じて、一般企業や医療機関の経営分析ができる知識・技能を養うとともに、問題発見・解決能力の修得を図る。	
		医療経済学	○	医療経済の４つの起源を説明する。その後、ミクロ経済学の代表的な理論を取り上げる。市場の失敗、政府の失敗の概説ののち、保険制度の必要性や病床規制の根拠となる、エージェンシー理論およびモラルハザードの概念、さらに供給者誘発需要仮説を説明する。経済理論と公的保険制度等との関連性について説明し公的制度の合理的根拠が経済理論によって構築されている点を解説する。	
		医療流通システム論	○	医療・福祉業界の特異な流通慣行および商取引形態について現状に即して解説し、医療・福祉施設および関連する医療機器・薬品卸売業との関わりを説明し当該理論との関連を修得させる。具体的事例では、医療・福祉機関で導入されているSPDシステムによる医療材料の物品管理の方法とその活用を修得させる。基礎的理論の修得、事例によるケーススタディを実施し、アクティブ･ラーニングが可能なように自らの解決策を構築できるよう指導する。	
		医療マーケティング	○	医療・福祉分野に応用できるマーケティングの基礎理論の中で特に医療・福祉施設のブランディングの構築の方法とその活用、同施設の広報戦略の実際、インターナルマーケティングの実践による管理手法の実践、地域医療連携室とのリレーションシップマーケティングの実際などを中心に取り上げる。解決策策定のための社会調査法による調査票調査の設計・入力・解析を実習形式で実施する。	
		原価計算	○	原価計算に関連した基本的な用語および概念を簡潔に説明できること、さらに製品原価の計算のための一連の手続きである費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算を理解し、基本的な計算問題を解けるようにする。さらに、原価計算システムが経営管理目的に有用な情報を提供できることを理解することを目標とする。	

マネジメント理論	会計学Ⅱ	○	「会計学入門」を入門編、「会計学Ⅰ」を基礎編、「会計学Ⅱ」を応用編と位置づけているため、あわせて履修することを推奨する。①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつける、②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて、企業が公表する財務諸表と各種IR情報を利用しながら、企業活動の実態を推論する能力をつける。	
	監査論		監査論は、監査を主たる業務とする公認会計士になる者はもちろんであるが、将来企業などの財務経理部門担当者として会計監査や内部統制に関わる者にとっても必須である。前半は公認会計士監査を学習し、法定監査や外部監査と呼ばれる監査を行う側の視点より学修する。後半は監査がどのように他の制度と結びついているのかといった点や、企業が自らを監査するために行う内部監査を通じて被監査会社の視点からの学修を行う。	
	医療経営戦略	○	医療機関マネジメントを理解するため、急性期医療機関経営を模したビジネスゲーム【医療経営MX】を使用する2日間×2回(計4日)の集中講義にて、これまでの学修で得た知識を活かしながら“ヒト・モノ・カネ・情報”への投資意思決定や、B/S、P/Lを自分の手で作成するなど、医療機関マネジメントをシミュレーションし、会計情報等を活用し経営分析、経営計画(予算・投資計画)立案、決算報告資料作成等の医療機関マネジメントに関する学びの定着を図る。	
	組織心理学	○	組織は、人の集まりであり、人と人との関係から発生する諸問題への対応が常に課題となる。組織心理学では、組織内での人間関係によって生じる心理学的、行動学的特性についてマネジメントの視点より学び、組織のありかたとそれを取り巻く環境、組織のしくみ、連携の様態やその運営について、関連する理論を提示し、身近な事例と対比させながら理解を促す。	
	経営管理論	○	医療施設経営の認識の基盤となる企業経営そのものに対する関心を高め、所属する組織とかかわる上で必要不可欠な知識を身につけ、経営管理の概念を理解する。基本的なマネジメント理論、組織論、財務管理、目標管理、サービス・マネジメント等を概説し、それらを統合した企業のマネジメントについて学ぶ。科目の後半ではケースメソッドを取り入れ、企業経営活動を分析し、経営管理上の課題を探求し、理論と対比させながら経営管理の理解を促すディスカッションを中心とした授業を行う。	
	人的資源管理論	○	医療機関や社会福祉施設において、対象者へ直接サービスを提供する専門人材は重要な資源であり、それらのマネジメントはサービス品質および顧客満足にかかわる経営上の重要な課題である。この授業では、組織における人材の育成およびマネジメントに関する役割や機能を理解するため、人的資源管理における諸理論とその応用、効果について学ぶ。	

		企業法務		医療法人であれ営利法人であれ法人(企業)の活動は多くの法令の制約を受けている。そのため、企業がその社会的責任を果たしつつ効率的に企業活動を行うためには、法的知識を修得し法令遵守に努めて、あり得る法的リスクに対応することが重要となる。本授業では企業活動において対内関係(雇用関係等)で生じ得る法律問題および対外関係で生じ得る法律問題の両面を学ぶことを通して、効率的かつ法令遵守重視の企業活動に貢献する能力を受講生が身につけることを目指す。	
	医療管理	医療管理総論		医療の成り立ちとそれに関連する法規、制度、政策などを理解し、社会の中での医療の位置づけや役割、機能を踏まえ、医療事業におけるマネジメントの意義や課題について考える。一般的な経営管理論から医療福祉業のマネジメントに関連する理論を用いて、医療福祉組織の提供するサービス財の価値と、その連鎖の中でマネジメントの役割について検討し、医療福祉経営に期待されるマネジメントのあり方について理解を深める。	
		医療安全・臨床倫理		医療安全の体系と役割、機能について理解する。医療は人々の生命や健康を守ることを目的としており、安全であることは必須の前提である。しかし人は間違いを犯すものであり、人が行う行為によって成り立つ医療福祉サービス現場では、いかにそれを最小限に食い止めるかが重要である。本授業では、医療安全の原理と手法を学び、臨床倫理の視点を用いて、想定される課題に向き合うことのできる見識と態度を養う。	
		医療管理各論Ⅰ		マネジメントの立場から、広く病院経営を理解するため、病院の経営管理、医療の質管理、医療安全管理の基本を学ぶ。病院の規模や特性により異なる運営管理に必要な制度の理解や法令の遵守、対人サービス業としての倫理観に基づく患者中心の病院管理の考え方、具体的な管理手法について、事例を通じて学ぶ。経営管理論、品質管理論、医療安全管理学などより専門的な学習に先んじて履修することで、病院組織の管理全般についての理解を促進する。	
		医療管理各論Ⅱ		医療事務職に必須の知識である診療報酬制度、診断群分類(DPC)について理解し、実践に活かせるよう、それらに関連する規定を遵守した業務遂行のための思考・判断の基盤を築く。また、これら取り扱うデータに関連した病院経営の質的な要件およびそのリスクに対応するため、医療評価指標や経営管理指標の取り扱いに関する基本的な知識、手法を獲得する。	
		医療管理各論Ⅲ		実習では、医療機関において実際に取り扱う医療情報の種類や情報の用途、取扱い上の留意点などを体験することで、学内で修得した知見の深化に繋げる。組織内の職種連携やサービス管理、病院管理の実際を知ることで、組織をマネジメントする上での調整業務についての関心を持ち、学んだ諸理論の統合を図る。本実習は、担当教員の指導のもと学生自ら実習計画を立案し、タイムマネジメントを含む社会人基礎力の涵養にもつなげる。	共同

	と実務	医療関連法規		医療機関は多くの法律の制約を受けている。医療技術に関する実務は医師の担当であるが、諸制度や施設基準等に関する医療関連法規についてはとりわけ事務系の医療従事者が最もよく理解していなければならない。本授業では、事務系の医療従事者に関連の深い法規について具体的な条文の意味内容を中心に学び、医療関連法規に対する理解を促す。その際には、条文を漫然と読むだけではなく、その趣旨および目的を考えることで各条文の背後にある思想を読み取り、患者の健康や生命に関わる職を目指す者として備えるべき責任感を受講生に持たせることを目指す。	
		診療報酬請求事務Ⅰ		診療報酬請求事務職は、医療事務として重要不可欠な技能であり、病院のいわば売上となる診療報酬を得るための、医療の知識に加えた独自の請求技能が不可欠な医療専門職である。本講は、診療報酬請求事務作業において病院外来診療における請求事務技能を修得するための講義および演習を行う。病院外来のみならずクリニックなど無床の医療施設での就業にも活用できるスキルであり、諸制度との関連において多様な事例を用いて授業を行う。	
		診療報酬請求事務Ⅱ		病院等の入院施設において、入院中の患者に提供するすべての医療サービスを診療報酬点数に換算して請求し、保険者と患者本人からの対価を得るための事務処理の一連を学ぶ。入院患者個々の療養生活に関連する事項を含む入院診療に関連する院内業務に関する知識の修得と、それらを理解した上での適正な報酬請求実務について、事例を用いた講義と演習から学ぶ。	
		こころとからだのしくみ		心身の構造や機能および発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を総合的に理解するための知識を獲得する。サービスを実際に提供する際に必要な洞察力、判断の根拠となる人間のこころとからだのしくみについての知識を獲得し、医療機関・福祉施設の課題解決と運営管理、地域課題の解決や地域づくりをするための基礎とする。	
		認知症ケア論		社会の中には多くの認知症を抱える人が存在している。人生の歩みの中で築かれたその人の暮らしを守り、認知症者の生活を支援するために、認知症の病態を理解した上でその人らしさを追求できる対応について、事例を通して学修する。また、これまでの法制度、運営管理などを含む認知症に関する理解に基づき、彼らを支援する新たなサービスを創発し、企画書作成およびプレゼンテーションを行う。	
		医療DXワークショップA		デジタルトランスフォーメーション（DX）とは、企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立することである。社会課題に対するDXの必要性とともに、日本における業界別のDX取り組み状況や国際比較から、DXの取り巻く環境を理解する。DXに関連した、デジタイゼーションやデジタライゼーションやIT化について基礎的な理解を目指す。わが国の医療制度におけるDXの重要性の高まりから、診療報酬で評価する社会的な背景について理解するとともに、実践的な医療DX事例を概説する。	

専門教育科目		医療DXワークショップB		医療現場において材料に付与されるJAN・GS1-128・GTINなど製品コードを知ると共に、医療制度下の管理手法を理解する。近年、自動レジや在庫管理に利活用されるRFID（Radio Frequency Identification）などの自動認識技術と製品コードの関連技術について概説し、実践的な管理技術の習得を目指す。 また、人の手によるデータ入力や処理を代替するロボット技術としてRPAが登場し、医療現場において利活用されている。RPAに代表されるノーコードプラットフォームの操作技術を習得し、電子カルテがおかれている閉域網システムとクラウドネイティブにおける実践的な活用事例を題材に、RPAを用いたデータ分析や管理技術について習得を目指す。	
		医療DXワークショップC		医療DXを推進する人材は、病院が抱える様々な課題に対して多職種との連携を通じて情報収集し、AIやロボティクス等の既に存在する技術を適切に活用することを立案し、効率的に解決するプロジェクトを担う。本講義では、経営戦略のための情報活用に関する代表的な手法（SWOT分析、VRIO分析等）を理解し、分析結果から既存技術を活用して解決する実践的なスキルを修得する。	
		医療情報システム論		医療情報システム論は、医療・介護分野の情報システムの設計、導入、運用に関する理論と実践を学ぶ科目である。医療情報システムは、医療の質と安全を向上させ、業務の効率化に不可欠である。この科目では、電子カルテやオーダエントリシステムなどの基本構造を学び、各部門システム間の相互関係を理解する。さらに、システムの選定から運用テスト、ユーザートレーニングに至る導入プロセスを詳しく学習し、コストや導入スケジュール、スタッフの習熟度などの考慮点を検討する。システム運用と保守についても触れ、パフォーマンスモニタリングやメンテナンス、障害対応の方法を学ぶ。加えて、医療情報システムの安全管理に関するガイドラインに基づき、セキュリティとプライバシー保護の重要性を強調し、安全なシステム運用についても学ぶ。全体として、医療情報システムの全貌を把握し、実践的な知識を身につけることを目指す。	
		データベース基礎		データベース基礎は、医療・介護福祉分野における情報管理技術の基本を学ぶ科目である。まず、リレーショナルデータベースの重要性や構造（主キー、外部キー）を理解し、データの正規化技術を修得する。次に、SQL（Structured Query Language）の基礎を学び、実務に直結したクエリの作成方法を修得する。さらに、データベース設計の手法（ER図など）を学び、現場のデータを適切に管理するための設計を行う。データベースのセキュリティやバックアップ戦略についても触れ、アクセス制御や暗号化の重要性を理解する。最後に、一般的なデータベース管理システム（DBMS）の基本機能やパフォーマンスチューニングを学び、実際のデータベース構築と運用スキルを身につける。この科目を通じて、医療・介護福祉の現場でのデータ管理・活用に必要な基礎的なスキルを修得できる。	
		データベース応用		データベース応用は、基礎で学んだ技術をさらに発展させ、医療・介護福祉の現場で必要な高度なデータ管理と分析スキルを修得する科目である。主に、高度なSQLクエリ作成技術、データベースのパフォーマンス最適化、トランザクション管理、データの整合性保持、バックアップとリカバリ技術を学ぶ。これにより、複雑なデータの抽出や処理を効率的に行えるようになる。また、NoSQLデータベースやビッグデータ処理技術についても触れ、MongoDBやCassandraの活用法を考察する。この科目を修了することで、高度なデータベース管理技術を身につけ、医療・介護現場で即戦力となることが期待される。	

	医療情報マネジメント	データ構造とアルゴリズム		データ構造とアルゴリズムは、コンピュータサイエンスの基礎であり、特に医療・介護福祉分野において効率的なデータ処理と分析を行うための重要な知識である。この科目では、配列、リスト、スタック、キュー、ツリー、グラフなどのデータ構造の特性と用途を学び、最適な構造を選択することでプログラムの効率性を高める。次に、探索アルゴリズムやソートアルゴリズム、グラフアルゴリズムを理解し、時間計算量や空間計算量を分析する。また、医療・介護福祉の現場でのデータベース最適化やスケジューリングアルゴリズムの設計など、実践的な問題解決能力を養う。さらに、再帰や動的計画法、分割統治法といった高度なアルゴリズム手法を学び、大規模データの効率的な処理に役立てる。プロジェクトや演習を通じて理論を実践に応用し、現場での業務効率化やサービス向上に寄与する力を身につける。	
		通信ネットワーク		通信ネットワークは、現代の情報システムにおいて重要な要素であり、特に医療・介護福祉分野では情報共有や遠隔医療に欠かせない。この科目では、ネットワークの基本概念や構造（LAN、WAN、インターネット）を学び、各ネットワークの利点・欠点を理解する。また、TCP/IPやHTTPなどのネットワークプロトコルの役割や動作原理も修得し、データの正確な送受信の重要性を理解する。ネットワーク設計では、トポロジーや機器の役割、スケーラビリティ、冗長性を学び、効率的なネットワーク構築能力を身につける。さらに、無線通信技術（Wi-Fi、5Gなど）やセキュリティ対策（ファイアウォール、VPN）についても学び、実務で役立つスキルを修得する。修了後は、医療機関・介護福祉施設での情報通信を円滑に運営し、データの安全な伝達を支える役割を果たすことが期待できる。	
		情報セキュリティ		情報セキュリティは、医療・介護福祉分野で重要な科目であり、個人情報や医療データを保護するための知識と技術を学ぶ。この科目では、情報の機密性、完全性、可用性（CIAトライアド）を理解し、脅威（ウイルス、マルウェア、フィッシングなど）とそれに対する対策（アンチウイルス、フィッシング教育など）を習得する。また、情報セキュリティポリシーの策定やリスク管理、教育の重要性についても学ぶ。暗号化技術やアクセス制御、多要素認証を用いて情報の機密性を確保し、法規制（個人情報保護法、医療情報関連法）や国際基準（ISO/IEC 27001）を理解することも重要である。これにより、医療・介護福祉分野で利用者のプライバシーを守り、セキュリティレベルの向上に貢献できるようになる。	
		臨床データ分析Ⅰ		社会においても臨床の現場においても、現状を捉え、測り、知り、行動するためには様々なデータに基づく意思決定が求められる。様々なタイプや大きさのデータを適切に扱える能力が重要である。本講義では、表計算ソフト（Microsoft Excel）や統計ソフト（SPSS）を用いて、調査や実験などで得られるデータを処理、分析する知識やスキルの習得を踏まえ、多様な現場での即戦力育成を目指す。	
		臨床データ分析Ⅱ		診断群分類包括評価（Diagnosis Procedure Combination：DPC）は、日本における医療費の定額支払い制度に使われる評価方法であり、データは厚生労働省が収集し管理している。医療機関は、超高齢社会における医療ニーズの多様化に直面し、質の高い医療を効率的に提供する一策として、DPCデータに基づく意思決定を行っている。本講義では、DPCデータの基礎および実践的事例を題材に分析方法について学修する。	

	画像情報処理		医用画像は診断に欠かせない診療情報であり、処理技術により画像に含まれる情報を有効活用することができる。本講義では、各種医療画像機器における医用画像の性質および処理方法について学修する。また、深層学習の台頭により、画像処理の精度が飛躍的に向上している。これらの技術についても概観する。	
	プログラミング演習Ⅰ		プログラミングとは何かを理解し、判断分岐や繰返しまでの制御構造を使った簡単なプログラムを組めるようになることを目標とする。使用するプログラミング言語はPythonである。しかし、本科目で学習することはプログラミング言語の種類によらない共通のものを多く含むので、将来、他の言語を学ぶ場合にも大いに役立つであろう。毎回の授業は講義と実習からなる。講義ではプログラムの書き方を学ぶ。実習では講義で学んだことをテーマとする課題に取り組み(プログラムを作成及び修正)、その動作を確認する。	
	プログラミング演習Ⅱ		プログラミング演習Ⅰ（Python）を基に３つの課題（自然言語処理、波形処理、画像処理）に取り組む。自然言語処理では、MEDIS-DCの標準病名辞書を用い退院時要約の文書から病名を抽出したり、文書の類似度を求めたりする。これにより文字列処理の基本とベクトルを扱う演算を学ぶ。波形処理では、心電図データを対象にR波の検出や心拍数を求める。これによりグラフ表示の方法やフーリエ変換の手法などを学ぶ。画像処理では、MRIのDICOM画像を表示し、フィルタによる特徴抽出やMIP（Maximu Intensity Projection）画像を作成する。これにより2次元データの処理方法や画像処理の基本を学ぶ。	
	AI基礎		プログラミング演習ⅠとⅡを基に、人工知能の基礎プログラムを学ぶ。はじめに簡単なゲームを作成して上手く解くパターンを見つける。これは探索空間から最適な解を見つけ出す遺伝的アルゴリズムについて学ぶ。次に手書き数字のデータセットを使い、教師なし学習のプログラムを作成する。ここでは、自己符号化器のアルゴリズムを学び、データのエンコード（圧縮）とデコード（解凍）の方法を学ぶ。最後に、AIエンジンのTensorflowを用いて教師あり学習を行う。ここでは深層学習を用いて手書き数字の訓練・テスト方法について学ぶ。これらのプログラミングのスキルを様々な医療分野に応用することができることについても学ぶ。	
	ユニバーサルデザイン概論		現在の社会においては、SDGs(持続可能な開発目標)に掲げられているように、誰もが平等に、安全で快適な生活が送れることが求められている。ユニバーサルデザインは、障害の有無、年齢、性別、国籍などに関係なく誰もが利用しやすい社会、環境、サービス、システムを創出することを基本としている。あらゆる場面において、サービス・システムの提供者は、多様な利用者の視点で課題を見つけ出し、課題を解決するための配慮点、配慮実現のための技術活用などを包括的に考えることが重要である。本講義では、国内外の事例を通して、障害者や高齢者など多様な人々の特性を理解し、医療・福祉サービス・システムにおいて、ユニバーサルデザインの理念を実現するために必要な基礎知識を学ぶ。	

	ユニバーサルデザイン演習		本講義では、ユニバーサルデザインの観点で、実社会における課題について、実際の調査や体験を通して、よりユニバーサルデザインの理解を深める。多様な利用者に使いやすいサービス・システムを作るため、実際の課題を見出し、解決を検討していくプロセス（人間中心設計）において、必要な調査手法や基礎技術を習得することを目指す。特に、ウェブやソフトウェアなどのシステム開発プロセスを事例として、利用者の課題やニーズに関する情報収集のための手法（インタビュー・観察など）、システム設計案の評価のための手法（プロトタイピング・ユーザーテストなど）などを実際に行いながら、ユニバーサルデザインを実現するための具体的な手法を学ぶ。	
	プロジェクトマネジメント		プロジェクトの目標設定、スケジュール作成、リソースの割り当て、コスト管理の手法について理解が求められる。プロジェクトを効果的に管理するために、ガントチャートやクリティカルパス法、PERT（Program Evaluation and Review Technique）などのツール活用、プロジェクトの進捗可視化、タイムラインに沿ってタスク管理スキルを習得する。さらにチームリーダーとしての役割や、メンバー間の調整、モチベーション管理、コンフリクトの解決法を学ぶ。またステークホルダーとのコミュニケーションも重要であり、介護施設の管理者や外部パートナーといった関係者に対して、プロジェクトの進捗や成果を適切に報告するスキルを身につける。加えてプロジェクト後の評価方法や、成功要因・失敗要因の分析を行い、プロジェクト管理スキルを向上させるための方法を習得する。	
	事業構想論		医療・福祉サービス産業の分野ではマネジメントの持続可能性が求められる。本講義の前半では、医療サービス産業の理念や方針の設定、施設規模、経営組織、経営収支の概要を事例を通じて解説する。後半では、医療サービス産業を事業化することを想定し、経営収支項目ごとの経営指標を用いて、事業内容、施設規模、組織体制、収支計画シミュレーションなどの経営計画を構想する。	

地域マネジメント	持続可能社会と地域医療福祉経営	○	既修科目の知識を活用し、営利・非営利の視点から地域社会と連携し、地域社会学的な視点で課題を解決することを理解する。前半は、持続可能な社会は、高齢化が進む地域社会の医療・福祉施設での公益志向を重視し、様々な部門で活動する人々と多様な価値観の中で、連帯して生活し共生志向を有することの大切さを説明する。後半は、事例を用い問題解決型学習（PBL）を実施し、事例の課題の抽出と解決策を議論させることで、主体性を育成させる。 （オムニバス方式/全15回） （11　加藤 敏文/7回） 「①持続可能な社会とは何か、②持続可能な地域社会像、③連携の関係づくりと地域社会、④持続可能な地域社会の形成(1)、⑤持続可能な地域社会の形成(2)、⑭先進事例研究：公益志向の地域社会、⑮先進事例研究：共生志向の地域社会」を担当する。 （3　伊藤　一/8回） 「⑥持続可能な地域社会の形成(3)、⑦地域医療経営の広報戦略、⑧医療の地域連携を基礎とした広報戦略事例研究、⑨ＣＳＲを活用した病院経営、⑩地域医療機関のケアミックス型施設の経営戦略、⑪医療BSC経営による経営戦略の実現、⑫地域医療経営におけるBSC経営の事例、⑬ABC(アクティビティーベースドコスティング)を活用した価格設定の事例」を担当する。	オムニバス方式
	サービス産業論		サービス産業は取り扱うサービスの内容などから、その特異性、固有性などは多様である。本講義の前半では、我が国経済におけるサービス産業および医療サービス産業の地位、事業経営の特性、サービスの特性などの基本的な考え方、その考え方を基礎にサービス・マーケティングの枠組みを学ぶ。後半では、医療サービス産業は病院および介護・福祉施設などにより構成されており、近年特に最適な医療サービスの提供が求められ、医療サービス品質の高め方や管理の方法、そうした取り組みを実践する先進事例を学ぶ。	
	地域連携実践	○	本科目は企業実習（インターンシップ）科目である。医療福祉サービス活動を実習を通じ実際の場面で体得させ、具体的にその仕組みや内容、課題などを理解させることを目的に配置する。具体的には、医療福祉サービス活動を事務部門、販売・購買部門などで幅広く体験させ、その仕組み・人・物・金・情報の流れを全体的に把握する。また、医療福祉サービス活動とそれを取り巻く環境諸条件などの関連・影響を総合的・システム的に把握する。加えて、経営理念・戦略、経営者の指導力、情報処理システムなどの重要性を体験を通し認識する。	共同
	ソーシャル・ビジネス		ソーシャル・ビジネス（SB)とは、社会的課題を解決するために取り組まれている事業と定義され、めまぐるしい時代の変化と社会からのニーズと共に常に変化し続けている。医療や福祉業界をはじめ環境問題や貧困による格差問題、子育て支援や障碍者雇用など活動分野は多岐にわたる。この授業では幅広いSBの活動を網羅し、SBの基礎的な知識を学び、自ら社会課題の発見から問題解決までを一貫して提案できるようになることを目的とする。	

	総合科目	基礎演習	○	毎週1回、大学教育の基礎的な学び方を知る。文献や資料の調べ方、レポートの作成方法、プレゼンテーション等の基礎的な学修手法を、少人数の演習形式で学んでいく。特に、2年次から増していく専門的な学修に備えるために、学びの手法を獲得していく。また、社会福祉施設などでの体験学習を行い、2年次以降の学修に向けた意識向上を図っていく。	共同
		専門演習Ⅰ	○	専門演習Ⅰでは、学生各々の目指す進路に向けてこれまでの学びを統合し、自身の未来のテーマを見出す取り組みを支援する。週1回、ゼミナール授業を行う。4年次における専門演習Ⅱに向けて、テーマをより明確化し、研究の位置づけを明らかにするために文献を読み、研究主題を明確にする。客観的な手法によるデータ収集、統計手法の活用、フィールドワークセンターを活用したフィールド調査などを実施する。	共同
		専門演習Ⅱ	○	専門演習Ⅱでは、専門演習Ⅰから継続し、各々の目指す進路・資格に向けて大学での学びを統合し、学生個々が取り組む研究、調査のプロセスを支援する。原則毎週1回、ゼミナール授業を行う。専門演習Ⅰで行った研究内容について精査し、自身の関心をより明確化する。研究の社会的意義を明らかにし、より正確で説得力のあるデータ収集のために文献調査、フィールド調査や統計処理等を行ない、卒業レポートとしてまとめる。	共同
		卒業研究	○	この科目では、各自の研究テーマに基づき、卒業論文を作成する。4年間の学修成果を形式知に昇華させることを目的とする。そのために、専門演習Ⅰで培ってきた基礎的研究成果を元に、研究計画作成、データ取得、議論、などを行い、研究内容を論文としてまとめ上げる。前期末に研究内容の途中経過、学年末に作成した論文の発表を行う。	共同

（注）

1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。

2　専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が４０人を超えることを想定するものについては，その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。

3　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

4　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（ヒューマンデザイン学部共生社会デザイン学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	人間の尊厳と自立		人間の理解を基礎として尊厳の保持と自立について理解し、医療福祉専門職に求められる倫理的課題への対応能力の基礎を養うことを目指す。特に、以下の内容を含むように配意する。①多様性の尊重に対する基本的理解を養う。②福祉理念の歴史を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重および権利擁護の考え方を養う。また、利用者本位の観点から自立の概念、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解する。	
	倫理学		「倫理」とは人が生きていくために価値や規範としての「ありかた」を問い続ける学問である。そして医療はそのなかで「あるべき」姿を追いかけることの困難さを実感し続ける現場である。本科目では「命の倫理」が生まれた歴史的背景を基盤としつつ、前半では医療人としての倫理観を身につけ育てていくのに必要とされる視点や方法について、後半では臨床で必要とされる基本的概念と日常感覚との接点を中心に学修する。	
	文化人類学		「地球市民の基礎教養」といわれる文化人類学は、考現学の一種である。今・ここにあるモノやヒト、ことがらが、文化化された事象を扱う学問となる。その目的は異文化理解力を身につけ、他者を深く理解するとともに、自らの文化を客観的にとらえる訓練をする。具体的な事例を、聞き取り調査と参与観察による現地のフィールドワークで収集し、データ化するという特徴があるため、理論の講義はあまりない。	
	教育学		代表的な教育思想とその歴史的背景に焦点を当て、教育は人間が生きる上でどういう意味を持っているのか、また社会の中でどのような役割を果たしているのかという二つの点から考察する。教育の本質を人間の発達と学校教育のあり方（内容と方法）、教育を取り囲む社会、法制度との関連で明らかにする。新学習指導要領に伴う大きな変化をふまえて、題材は「教育の課程と方法」を中心にして講義する。	
	文学		主に日本文学に限定し、今なお影響力を持ち、我々の行く末を照らしてくれている文学作品を精読、分析する。さらに、現代には、ボブ・ディランの歌詞がノーベル文学賞を取ったり、Twitterのつぶやきが小説になったりと時代とともに文学の形態は変わってきており、そうした時代の変化についても学修する。	
	北海道史		本講義は、北海道の近現代史を毎回別の歴史的事項を通して理解します。これまで学んできた通史としての歴史ではなく、曾祖父母、あるいは祖父母世代が経験したかもしれない風景に端を発し、その今に至るまでの経緯を学ぶ。受講する学生は興味を持った歴史的事項を自らのテーマとし、その課題に沿った情報の収集や、そのために教員が作成した副読冊子をガイドブックとして視察、見学などの自学自習に取り組む。	

人間と文化	心理学と心理的支援	○	社会福祉学、精神保健福祉学、心理学の領域において必要とされる基本的な心理学理論と心理学的援助技法について学ぶ。具体的には、「心理学の視点」「人の心の基本的な仕組みと機能」「人の心の発達過程」「日常生活と心の健康」「心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本」「ソーシャルワークと心理学」を理解する。	
	発達心理学		本講義では、乳幼児期から老年期までの発達の過程を取り扱う。人の発達の概念と発達を形成する諸要素および影響要因、また、ピアジェ、フロイト、エリクソンなどの発達理論を学修し、各発達段階における特徴的な行動や発達課題について学び、人の発達の一般的特徴について理解する。また、パーソナリティ形成への影響、行動との関連についての学修から、各個人の発達の特徴を理解する。これらを通し、他者の発達を見通す力をつけ、さらに、各発達段階に特徴的な発達の危機を理解し、そこからの脱却についても考え、深める。	
	ボランティア活動		21世紀の地域共生社会の構築に向けた課題の一つは、ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンを理念とした地域福祉の推進である。この地域福祉の推進の主体は、地域住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者、そしてボランティアやNPOなど社会福祉に関する活動を行う者である。そして地域福祉は住民参加を不可欠とする。このボランティア活動は今日の住民参加の一形態である。ついては、21世紀の私たちの生活のしづらさを支援する地域福祉の推進に向けて、社会福祉の基本法である社会福祉法の趣旨に依拠しつつ、実践論的な視点からボランティア活動を検討し、実際の活動に結びつけられることをねらいとする。	
	健康・医療心理学		ストレスと心身の疾病との関係(ストレスの心理とアセスメント、ストレスの生理と心身の疾病、心の健康とストレスマネジメント)、医療現場における心理社会的課題および必要な支援(医療現場における活動の基本、保健・医療における法律・制度・倫理、精神科：小児・思春期・成人期・高齢期、医療観察法指定医療機関、心療内科・内科、小児科・母子保健領域、神経科・リハビリテーション領域、さまざまな医療現場（高齢者医療，先端医療等)とコンサルテーション)、保健活動が行われている現場における心理社会的課題および必要な支援(さまざまな保健活動、健康支援活動とストレスチェック、自殺予防活動)、災害時等に必要な心理に関する支援について学修する。	
	福祉心理学		福祉現場において生じる問題およびその背景(社会福祉の歴史と動向、社会福祉の理念、社会福祉の制度・法律、社会福祉の職種)、福祉現場における心理社会的課題および必要な支援(福祉現場における活動の基本、福祉分野の活動における倫理、福祉における心理アセスメント、福祉における心理学的支援、児童福祉分野の活動、家庭福祉分野の活動、高齢者福祉分野の活動、障害者福祉分野の活動)、虐待および認知症についての基本的知識について学修する。	
	教育・学校心理学		教育現場において生じる問題およびその背景(教育の制度・法律・倫理、教育・学校の環境、学校における問題の理解)、教育現場における心理社会的課題および必要な支援(発達と教育、教授・学習、教育分野における心理学的援助、教育分野における心理学的アセスメント、児童生徒に対する心理学的援助、援助者・関係者への心理学的援助)について学修する。	

基礎教育科目	人間と社会	法学入門		法は我々の社会生活に深く関わっている。たとえば、大学生が、大学へ通学する際に公共交通機関を利用し（運送契約）、店で弁当を買い（売買契約）、大学の教室で講義を受ける（在学契約）だけでも複数の法律関係（ここでは契約関係）が存在している。もはや我々は生活する上で法と無関係ではいられず、それゆえ、社会に生きる者として法を学ぶことが必要不可欠であり、生活と関連させながら法を学修する。	
		政治学入門		どんな分野においても、世の中の仕組みを作っていく政治と無関心ではいられない。政治とは利害調整の仕組みともいえる。政治学の基礎を学ぶことで、そうした仕組みを理解し、世の中の諸問題を考察し、分析する力を養うことを目指す。特に、医療福祉において本人支援に必要な自由主義や民主主義の概念の知識修得を目指す。	
		経済学入門		経済学を初めて学ぶ学生を対象とし、平易にその内容を紹介する。基礎的な知識の理解となるよう、経済学の学修に必須となる用語、概念、理論について学ぶ。特に、経済理論の一分野であるミクロ経済学を取り上げ、市場、生産、消費、競争など主要な要件に関連する知識を教授し、企業経営と関連させ理解を促す。	
		経営学入門		経営学の入門科目として、一般的な経営理論を学び、医療経営に必要となる基本的なマネジメント概念の整理を行う。「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」等から構成される事業のゴーイング・コンサーン（存続・発展）に対する思考の整理ができるよう、代表的な経営事例を用いて、マネジメントの概要について理解させる。	
		行政法		行政法は、行政と私人の間や行政と行政の間を規律する法である。ところで、今日の我々の生活は、様々な場面で行政に依存して成り立っており、さらに民間企業の事業活動にも行政が大幅に介入しているわけで、その意味で、行政法は我々の日常生活に深く関わる法なのである。そこで本授業では、我々の生活や企業の活動において生じる法的問題に行政法がどのように対処しているかを、裁判例や学説を通して学ぶ。	
		マーケティング入門		医療福祉マネジメントの中でマネジメント分野の諸課題を理解するため、マーケティングの基本理論を中心に解説する。 前半はマーケティングの定義や諸概念、歴史的発展の経緯、戦略と管理の考え方、マーケティング・ミックスの4対応のうち、価格と製品への対応を解説する。 後半は流通とコミュニケーション対応や消費者行動、サービスや関係性やソーシャルマーケティングなどを解説する。 最終的にはケーススタディーによりマーケティング事象を分析できる能力を高め、グループで討論し、成果の相互評価を実施して内容の理解を深める。	

		統計学		統計学は根拠に基づく医療(Evidence based medicine)を担う基盤科目である。データの集計・解析を通して、変数間の関連を整理し因果関係を推論する力は、保健医療福祉専門職にとって必須の資質となる。本講義は、①調査、臨床、研究によって得られたデータを集計し要約する（記述統計学）、②検定統計量を算出しそれをもとに関連を吟味する（推測統計学）、という統計学の主要概念を学ぶことを目的としている。代表値、平均・分散、標準偏差、信頼区間、有意水準などの指標に習熟し、仮説検定の判定手順についても理解する。統計調査の企画実施における倫理規定の遵守や個人情報の保護についての認識を深める。	
		会計学入門		会計は社会を定量的に見る重要なツールである。この授業では会計がどのように社会に役に立ち、重要性を持つか学修する。入門となるため、それぞれの分野には深く踏み込まないが、全体像の把握と社会における役割という点を重視して授業を行う。	
		簿記入門		簿記は帳簿に記入するためのルールを定めたものである。会社などの組織は、その活動から生じるいろいろな事柄を整然と記録し、その利害関係者に経営成績や財政状態を明らかにしなければならないが、今日の複式簿記はこれら会計情報を作成する上の手段として欠くことができないものである。この授業は、簿記の基礎と位置づけ、簿記の仕組みと会計的思考の裏付けとなる考え方について学ぶ。	
		社会学と社会システム	○	人は弱者戦略として群れを作る動物である。ただ群れるだけなら集団だが、何らかのシンボルのもとに群れる、関係性や秩序が生まれるならそれは社会である。教科書がないと言われてきた社会学は挑戦的でおもしろい学問で、社会全体を丸ごとその考察の対象としている。講義形式の授業とFormsを利用した学習成果の確認によって、広範囲で多様なこの学問の各事項を効果的に学んでいく。	
		家族社会学		家族は長い間、人々にとって最も身近で基礎的な集団として、私たちの生き方を強く規制してきたが、いま大きく揺れ動き、その存在自体が問われるようになってきている。本講義では、変動しつつある家族の現状を理解するとともに、そのような変化をもたらしている要因について理解し、これからの家族のあり方について展望し、考えていくものである。	
	健康科学	生活科学		生活環境のあり方を科学的にとらえ、より良い環境をつくり出す基礎を学ぶ。社会と生活に対する理解を深め、知識や実践を福祉サービスを必要としている人への支援につなげられるようにする。	
		健康とスポーツⅠ		スポーツを通して身体を動かす楽しさを知る。また、高齢化が進む現代社会における、様々な健康阻害要因について学び、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解する。さら に、身体能力の向上や疲労回復・ストレス発散を目的とした運動・スポーツについても理解 を深め、運動・スポーツのあり方と実践的な指導方法および評価法についても学修する。文化・ ツールとしてのスポーツについて理解し、社会の中でスポーツがどう役立っているかを学ぶ。	

		健康とスポーツⅡ		健康とスポーツⅠで学んだ身体を動かす楽しさをもとに、グループワークを含めながら、子どもから高齢者、障害者、ストレスを抱える現代人が、どのように運動と関わればよいか、より深く学ぶ。さらに、散歩、体力づくり、ストレッチ、柔軟体操、野外活動など、リラクゼーションのあり方についても知見や体験を深め、健康であるために運動とスポーツがどのように関わるべきかを理解する。	
	語学	日本語表現		本科目の目的は、広く社会に通用する基本的な言語表現力を身につけることにある。コース前半では、「文書作成の技術」と題し、大学での学修に不可欠な文書作成技法について学ぶ。社会一般的なルールに加え、作法なども学修の視野に入れる。コース後半では、「日本語力を磨こう」と題し、場面に応じたわかりやすい日本語表現について学ぶ。なお本授業では、グループワークや相互チェックなど演習型の教室内活動を多く取り入れる。	
		英語Ⅰ(基礎)		医療に関する様々なトピックを英文で読み、基礎的な読解力を高める。英文を正確に読むためのスキルを身に付け、論理的に要約し、伝達することを目的とする。社会、心理など様々な視点から問題をとらえ、いろいろな英文を読むことで、単語理解や、語彙力の向上、読解力の養成を目指す。外国の社会や文化、外国人の価値観などを知る機会となり、異文化交流の動機付けとなり、今後の語学学修のモチベーションとなることを期待する。授業の初めには、新聞記事を読み、VOAのニュースやNHK World English Newsなどから、最新のニュースのリスニングを行う。	
		英語Ⅱ(実践基礎)		ロールプレイ、ペアワークなどで場面を想定して英語の修得を目指す。英語について考えること、発音練習、会話によるコミュニケーションが重視される。英語を話すときに自文化について考え、他文化への理解を深めてもらいたい。言葉によるコミュニケーションと言葉によらないコミュニケーションの両方に取り組む。	
		英語Ⅲ（実践応用）		保健医療福祉分野における英文文献を教材として、正確に、論理的・批判的に読解する能力を身に付け、論文の内容を要約できることを目的とする。グループ抄読を通して、英文や論文内容の解釈についてディスカッションすることで、英文文献抄読を主体的に学修するための基礎的能力を育成することを目的とする。	
		中国語		隣国である中国とは、人事交流をはじめとして、経済・文化などすべての面で交流が盛んになっている。医療のグローバル化に向けて、国際的な動向をコミュニケーションをとおして理解することはきわめて重要である。本授業では、中国語の基礎や簡単な会話を学びつつ、現代中国の社会や文化についての理解を図る。異文化理解および外国語学習に意欲をもった履修を強く求めたい。	

		韓国語		隣国である韓国とは、人事交流をはじめとして、経済・文化などすべての面で国家間交流が盛んになっている。医療のグローバル化に向けて、国際的な看護の動向を知り、コミュニケーションをとおして理解することは重要である。そのため、本教科では韓国語の文字、発音など基礎的なことから日常生活で使う簡単な会話と読解能力を育成することを目的とする。また、本講義では韓国語をより上達させるため、コミュニケーションの背景知識になる韓流ドラマ・K-pop・動画などを活かし、韓国の社会や文化などを紹介し、理解を深める。	
		ヒューマンデザイン論	○	人々や社会の課題解決とニーズに基づいた社会資源の創発を目的とした人間中心のデザインのプロセスを、ICTの活用、組織のマネジメント、保健・医療・福祉サービス、地域創生の各事例において総合的に学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (16　照井 レナ/5回) 「①イントロダクション、⑤⑥組織のマネジメントとデザイン、⑬⑭地域創生・コミュニティデザイン」を担当する。 (5　金 文美/4回) 「⑦⑧⑨保健・医療・福祉サービスとデザイン、⑮総括」を担当する。 (15　赤津 裕子/3回) 「②③④人間中心デザイン・デザイン思考」を担当する。 (7　辻 由依/3回) 「⑩⑪⑫保健・医療・福祉サービスデザイン」を担当する。	オムニバス方式
		共生社会デザイン論	○	社会福祉学やソーシャルワークが志向する共生社会のありようやデザインについて、多角的かつ総合的な学修を進める。 (オムニバス方式/全15回) (4　丸山 正三/5回) 「①イントロダクション、②③社会福祉と共生社会デザイン、④⑤ソーシャルワークと共生社会デザイン」を担当する。 (5　金 文美/5回) 「⑥⑦精神保健福祉学と共生社会デザイン、⑧⑨精神保健ソーシャルワークと共生社会デザイン、⑩メンタルヘルスと共生社会デザイン」を担当する。 (7　辻 由依/5回) 「⑪⑫心理学と共生社会デザイン、⑬⑭共生社会デザインにおける心理的支援、⑮総括」を担当する。	オムニバス方式
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	○	現代社会ではさまざまな社会変動が起き、それに連動して生活問題や福祉ニーズも多様化・複雑化・複層化が進んでいる。そのなかで、本授業は社会福祉の原理と政策について多角的に考察し、現代社会における福祉問題を解決するための基礎を築くことを目標とする。特に、原理、歴史、思想、理論、社会問題と社会構造、福祉政策の基本的な視点に焦点をあてて学ぶ。	

	社会福祉の原理と政策Ⅱ	○	社会福祉の原理と政策Ⅰで学んだことをもとに、本講義では、福祉専門職として福祉問題を解決していくための体系的な理論と技術を身につけることを目標とする。現代にある社会的問題の解決に取り組むにあたっての基礎（社会福祉学的な想像力）を身につけることも目指す。特に、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の動向と課題、福祉サービスの供給と利用過程を中心に学ぶ。	
	ソーシャルワークの原理	○	利用者と家族の支援であるケアマネジメントを中心にして、個別支援について学ぶ。次に、地域の支援であるコミュニティワークを中心とした地域課題について学ぶ。そして、個別支援をもとに地域支援の繋がり、逆に地域支援から個別支援の繋がりを学び、個別支援と地域支援が一体的になり、ソーシャルワークになることを学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) （4　丸山 正三/5回） 「①ソーシャルワークの枠組み、②個別支援とケアマネジメントの関係、③ケアマネジメントの方法、④ケアマネジメントの過程、⑤ケアマネジメントの事例研究」を担当する。 (5　金 文美/5回) 「⑥ケアマネジメントとカンファレンス、⑦個別支援から地域支援へ、⑧個人や家族の課題と地域の課題、⑨地域支援とコミュニティワークの関係、⑩コミュニティワークの方法」を担当する。 (9　山下 浩紀/5回) 「⑪コミュニティワークの過程、⑫コミュニティワークの事例研究、⑬コミュニティワークと協議体、⑭地域支援から個別支援へ、⑮ソーシャルワークとは何か」を担当する。	オムニバス方式
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	○	社会福祉法の第１条において、「地域における社会福祉の推進」と記述され、それを受けて、第4条は地域福祉の推進について記述されているほど、今日、社会福祉における地域福祉の概念は重要とされている。それに呼応するように、新たな地域福祉の推進事業が国から示されている。そこで、本講義では、地域福祉の歴史、考え方、理論について概説し、地域福祉を支える社会資源をそれぞれ紐解くことで、有機的な連携の方法と地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムをはじめとする包括的支援体制について、地域の各層ごとに構築する必要性を学ぶ。	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	○	地域福祉を推進するために、福祉行財政の実施体制、福祉計画の意義・目的、包括的支援体制の考え方、多職種連携および多機関協働、地域生活課題の変化と現状を踏まえる。そのうえで、包括的支援体制における社会福祉士などの役割を理解する。特に、社会福祉士などの作成参画が今後期待されている福祉計画に重点を置き、地域福祉計画と地域活動計画、医療との連携について理解を深める。	
	社会保障Ⅰ	○	社会保障の歴史・理念・機能・構造・財源などの基盤を捉え、年金・医療保険・介護保険・労働保険・社会保険・民間保険といった各制度の概要と現状を理解する。また、各国における社会保険の課題を踏まえた上で、わが国の今日的課題について講義する。社会保障Ⅰでは、主に今日的社会保障の動向、わが国と諸外国の社会保障の歴史、理念、概念、役割、社会保障の財源および公的保険と民間保険の関係について学ぶ。	

	社会保障Ⅱ	○	社会保障Ⅰでの学びをもとに、主に年金、医療保険、介護保険、労働保険、社会保険、民間保険の概要と児童福祉、障害者福祉、社会手当制度の概要、諸外国社会保障制度の概要を学ぶことで、わが国の社会保障制度の現状と課題についても理解を深め、社会保障制度の今後のあるべき姿をも含めて考える力を涵養することを目指す。	
	貧困に対する支援	○	本講義では、現代社会において大きな課題となっている貧困に対する支援を学ぶ。具体的には、「公的扶助の概念」「貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態と社会環境」「貧困の歴史」「生活保護制度」「低所得者に対する法制度」についての理解に努める。さらに、「貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割」「貧困に対する支援の実際」にまで視野を広げて学ぶ。	
	高齢者福祉	○	高齢者福祉の歴史や高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。さらに高齢者の定義や特性、高齢者とその家族の生活と取り巻く社会環境について学ぶ。法制度として、介護保険法、老人福祉法、高齢者の医療の確保に関する法律、高齢者虐待防止法、高齢者住まい法、高年齢者雇用安定法などについて知識を修得し、高齢者と家族への支援や関連する専門職の役割、実際の支援の在り方、単身高齢者の増大と生活支援の必要性、終末期や死後対応についても説明する。	
	障害者福祉	○	障害者福祉に関する理念並びに法制度についての理解を深め、誰もが暮らしやすい社会のあり方について考察する力を養う。そして社会生活モデルの視点から、総合的に日常生活および社会生活について考える力を身につける。具体的には、障害者を取り巻く社会情勢、生活実態、ニーズ、障害の概念と特性、障害の捉え方、障害者福祉に関する法制度・施策の概要と課題、障害者と家族等の支援のあり方、関係機関や専門職の役割を理解する。さらに大きな問題となっている障害者虐待防止についても、理解を深めることもねらいとする。	
	児童・家庭福祉	○	本科目は児童福祉の理念・方法等について、法制度および実際の両面から講義するものである。児童福祉や家庭支援のあり方は時代の変遷と共に変容し今日に至っているが、講義を通してこれまでの歩みと現在を学び、これからあるべき姿を考究する素地の学びを図る。前半では児童・家庭福祉の理念・歴史、法制度等を概観することにより児童・家庭福祉の基本的枠組みを理解する。後半では児童・家庭福祉施策の実施主体の役割と機能、関連機関との連携について学び、実践活動がどのように展開されるか理解を深める。	
	権利擁護を支える法制度	○	社会福祉従事者の仕事は、身体的・精神的な衰えがある人々を援助することであり、そこでは、①援助を必要とする人々のことを理解して相手の立場に立って物事を考えること、②身体的・精神的な衰えがあったとしても人は対等・平等であるという人権意識を持って福祉活動の際に起こりうる人権侵害を予防することが重要となる。本授業では、権利擁護を支えるしくみ、特に成年後見に関わる法制度を学び、その背後にある人権意識を学ぶ。	

	社会福祉の基礎	刑事司法と福祉	○	社会における犯罪・非行を防止し、行った人の更生支援を実施して再犯・再非行を防止することは社会の重要な課題である。その課題の実現のためには、更生保護制度が有効に展開されることが鍵である。まず、更生保護制度を含め「刑事司法と福祉」についての理解を高めることを目的として、「刑事司法と福祉総論」「社会と犯罪及び原因論と対策」「刑事司法・少年司法」「施設内処遇」「社会内処遇」「犯罪行為者への支援」「犯罪被害者支援」「コミュニティと刑事司法」について学ぶ。	
		保健医療と福祉	○	わが国の保健医療サービスはいつでも安心して医療を受けられる国民皆保険によって支えられてきた。しかし、少子高齢社会の急速な進行とともに、医療法、医療保険制度、診療報酬制度等は様々に変更されている。わが国の保健医療サービスは歴史的な経緯を踏まえてかなり特徴的である。その特徴と、医療現場の現状や医療・保健分野の仕組みとチーム医療を理解し、さらに保健医療サービスを患者・家族へ届けてきた医療ソーシャルワーカーの役割・機能について理解する。	
		医学概論	○	医学概論では、「人の生涯にわたる成長と発達と老化の変化の特徴」「身体構造と心身の機能と題した人体の解剖学・生理学」「福祉業務において、関係する疾病や障害について」「リハビリテーション、国際生活機能分類、健康の捉え方」について講義をする。	
		人体の構造と機能及び疾病		がん，難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病(身体疾患に伴う精神症状に対して精神的ケアが必要な疾患：がん・心筋梗塞・糖尿病)、心身相関のはっきりした疾患（心身症）：過敏性腸症候群・消化性潰瘍・気管支喘息、身体症状を呈する精神疾患：不安症・うつ病、質性精神障害：アルツハイマー型認知症・パーキンソン病・てんかん、症状精神病：甲状腺機能亢進症・産褥期精神障害、医学的治療と心理学的ケア、多職種チーム医療、公認心理師の役割について学修する。	
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	○	ソーシャルワークとは、社会福祉の目標を実現する実践活動の方法である。社会福祉の専門職である社会福祉士、精神保健福祉士は、対人援助職としてその前提に利用者の自己実現に向けた深い理解と洞察、専門職としての倫理が必要とされる。本講義では、社会福祉士・精神保健福祉士の基本について体系的に学び、ソーシャルワークの形成過程を踏まえソーシャルワーク理念と倫理的ジレンマについて理解することを目的とする。	
		社会福祉調査の基礎	○	社会福祉調査には、臨床データを批判的に吟味し知見の蓄積・共有を目指す姿勢は、保健医療福祉専門職にとって必要不可欠な資質となる。本講義は社会福祉調査の意義と目的および方法に焦点を当てて教授するとともに、統計法の概要、社会福祉調査における倫理や個人情報保護におよぶ広範囲な分野について理解を深めることを目的としている。事例研究と統計調査について実際例を提示して解説することにより、質的研究と量的研究の相補性に対する理解を促し、専門職が有機的に連携していく上で必要な「知見の見える化と共有化」の技術力を高める。	

専門基礎教育科目		国際医療福祉論		世界の医療福祉に関わる制度と実践は大きく日本の現状とは異なる。ジェームス・ミッジリィの国際社会福祉論やエスピン・アンデルセンの福祉レジーム論による各国の医療福祉制度とその背景を比較し、その相違点を理解する。しかし、制度が異なるというだけで終わっては学ぶ意味がなく、いまの日本に必要な仕組みへの示唆を他国の現状から得る。特に、日本が学んできたイギリスやデンマークのコミュニティケアを中心に、日本の地域包括ケアシステムの新たな仕組みづくりを展望する。	
		公衆衛生学		公衆衛生の原義は、「すべての人の生命と生活を守る」ことである。公衆衛生学は、保健・医療・福祉を包括する総合科目であり、この分野の専門職が連携共同するために必要不可欠な共通言語である。本講義は疾病・障害の予防、健康の保持・増進を社会として達成するための基本的な考え方と歴史的経緯、制度を学ぶことを目的としている。公衆衛生を支える基礎科学である疫学、統計学の知識および技術の基礎を理解、修得し、あわせて公衆衛生活動に関わる計画や評価に必須な手法（地域アセスメント、保健計画策定）の基礎についても学ぶ。	
		公認心理師の職責		公認心理師の役割、公認心理師の法的義務および倫理、心理に関する支援を要する者等の安全の確保、情報の適切な取扱い、保健医療・福祉・教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務について学ぶ。さらに、自己課題発見・解決能力の涵養や生涯学習への準備、多職種連携及び地域連携についての理解も目指す。	
		臨床心理学概論		臨床心理学の成り立ち(精神分析学と力動的心理療法の成り立ち、行動理論と行動療法の成り立ち、人間性心理学と人間中心アプローチの成り立ち、認知理論と認知行動療法の成り立ち、心理療法の諸理論の成り立ち、心理的アセスメントの成り立ち)や臨床心理学の代表的な理論(臨床心理学の基本的概念、アセスメントの理論と技法、ケースフォーミュレーションと異常心理学、心理療法の理論、心理療法の折衷と技法選択、効果のエビデンス)について学修する。	
		心理学研究法		心理学における実証的研究法(科学と実証、実験的方法と観察的方法、実証の手続き、実験的方法、観察的方法)、データを用いた実証的な思考方法(相関関係から因果関係へ、定性的研究から定量的研究へ、データの統計的記述、複雑な心理事象のモデリング)、研究における倫理(人権尊重とインフォームドコンセント、研究の不正の禁止)について学修する。	
		心理学統計法		心理学で用いられる統計手法(記述統計、離散分布、連続分布、推測統計)、統計に関する基礎的な知識(統計分析の基礎、母集団と標本、確率と確率分布、エクセルやSPSSの使用方法)について学修する。	

心理学実験		実験の計画立案(レポートの書き方・心理学実験の倫理、調整法、極限法、恒常法、マグニチュード推定法、一対比較法、正反応・誤反応、実験とモデル構成、反応時間、潜在性、実験と理論構成)、統計に関する基礎的な知識(統計手法と科学的表記法、質問紙（調査）法、検査法（クラスター分析，因子分析などの多変量の統計的取り扱い）、時系列データ　(時系列などのデータ間に相関がある場合の統計的取り扱い))について学修する。	
心理的アセスメント		心理的アセスメントの目的および倫理、心理的アセスメントの観点および展開(有用な情報の総合的把握、関与しながらの観察、信頼性と妥当性)、心理的アセスメントの方法（種類：面接法・観察法・知能検査・発達検査・人格検査・症状評価法・診断面接基準・神経心理学検査・認知機能検査・テストバッテリ，成り立ち，特徴，意義及び限界）、適切な記録および報告について学修する。 （オムニバス方式/全15回） （2　糸田 尚史/5回） 「①②心理的アセスメントの目的及び倫理、③④⑤心理的アセスメントの観点及び展開(有用な情報の総合的把握、関与しながらの観察、信頼性と妥当性)」を担当する。 （3 下垣　光/5回） 「⑥～⑩心理的アセスメントの方法（種類：面接法・観察法・知能検査・発達検査・人格検査)」を担当する。 （11　大倉 雄一/5回） 「⑪～⑬心理的アセスメントの方法(症状評価法・診断面接基準・神経心理学検査・認知機能検査・テストバッテリ，成り立ち，特徴，意義及び限界）、⑭適切な記録および報告、⑮まとめ」を担当する。	オムニバス方式
心理学的支援法		代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応および限界(精神分析療法・力動的心理療法・芸術療法・表現療法・行動療法・行動分析・認知療法・認知行動療法・ストレスと心の健康への支援法・パーソンセンタード・アプローチ(人間学的アプローチを含む）・カウンセリング・集団療法・グループカウンセリング・家族療法・コミュニティアプローチ・技法の選択と効果のエビデンス)、訪問による支援や地域支援の意義、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について学修する。	
カウンセリング		カウンセリングが実際にはどの様なプロセスで実践されているか、前半は具体的な場面を設定しながら知識の整理をする。後半は医療、福祉等の臨床場面での事例素材により、カウンセリングの実際を学ぶ。講義と共に適時、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）、事例検討ではグループディスカッションを取り入れ、対人援助場面での臨床心理学的な専門性とはなにかの理解を深める。	
医療ソーシャルワーク論		疾病構造の変化、医学・医療技術の急激な進歩により、わが国の医療を取り巻く環境も激変してきている。このような状況の下、保健医療分野の専門職として、病院、在宅医療などにおける医療ソーシャルワーカーの役割への期待が高まっている。この講義では、医療福祉の歴史を踏まえ、医療ソーシャルワーカーの業務・役割・機能について理解する。	

	ケアマネジメント論		わが国では介護保険制度や障がい者制度を契機に、「ケアマネジメント」という用語は定着してきた。人々が地域による見守りや支援を受けながら、望ましい生活の維持のためのさまざまな複合的な課題に対して、生活の目標とそのための課題解決に至る道筋と方向を明らかにし、地域にある資源を活用し、総合的かつ効率的に課題解決を図っていくプロセスと、それを支えるシステムといえる。地域福祉実践を進めるうえで、個別のニーズに対する直接的で包括的なアプローチだけでなく、チームアプローチに必要な保健・医療・福祉の連携のあり方やサービス提供のシステム、福祉サービス運営管理のあり方など、地域包括ケアが目指す福祉コミュニティの構築が求められる。福祉サービス利用者が地域社会の中で自立した生活を営むことができるような支援について、資源開発なども含めて学ぶ。	
	リーダー論		対人支援の専門職として、利用者の望む生活を実現するためには、専門職個人の力だけではなく、チームとして力を発揮することが求められる。チームを牽引するリーダーの役割は大きく、人材育成と能力を結集して、チームが掲げる目標を成し遂げることにある。利用者の意向を尊重しつつ、生活ニーズを充足するための支援目標に焦点をあて、チーム全体をコーディネートする。リーダーは人材育成、組織をマネジメントする力が求められる。そのためには、チームメンバーや利用者の声に傾聴し、ニーズを捉える判断力と的確な伝達力、人材育成のためのスーパービジョン、リーダー自身の感情コントロール、さらには自己研鑽を積む必要がある。本科目では、リーダーとしての資質・役割を学修するとともに、チームとしての力を発揮するための基礎を修得する。	
	リハビリテーション論		リハビリテーションサービスは、心身に障害を持たれた方に複数の専門職により提供される。特に複雑な課題をもつケースへの支援の場合、福祉専門職はリハビリテーションチームの中でも欠かせない役割を果たす。本講義の中では、まずリハビリテーションの理念を歴史的背景から学ぶ。次に健康や障害の概念、また障害の種類や程度に応じた各種のリハビリテーションおよび地域におけるリハビリテーションの役割について理解し、障害を持たれた方に対するチームアプローチの中で福祉専門職に求められる機能と役割について理解する。最後に超高齢社会のわが国における地域包括ケアシステムの概要について学び、利用者へのより良いサービス提供について考えていく。 (オムニバス方式/全15回) (28　太田 誠/5回) 「①②イントロダクション、⑬～⑮これからの総括」を担当する。 (29　向井 康詞5回) 「③～⑦理学療法士の立場からのリハビリテーション」を担当する。 (30　大堀 具視/5回) 「⑧～⑫作業療法士の立場からのリハビリテーション」を担当する。	オムニバス方式

	ＩＣＦの理解		ICF（国際生活機能分類）についての理解を深め、人を支援する専門職として必須である「人が生きるということ」を総合的に理解し、アセスメントやケースの考察、多職種とのコミュニケーションにおける生活機能の定義や表現など支援への活用を学ぶ。具体的には、ICF成立に至る過程の中で「障害」や「人が生きること」がどのようにとらえられてきたかの考察を入口に、「分類」としてのICFに触れつつ、主にはそこに示される「社会生活モデル」の考え方を中心に理解を深める。各自の目指す専門性に基づいた支援アプローチの中で、ICFそして「社会生活モデル」を基礎とする思考ができ、活用できる能力を身につけることを目的とする。	
	福祉用具と福祉機器		福祉用具（機器・介護ロボット含む）は、福祉用具法において、「心身の機能が低下し、日常生活を営むのに支障のある老人または心身障害者の日常生活の便宜を図るための用具およびこれらの者の機能訓練のための用具並びに補装具」を総称するものと定義されているが、介護保険法での福祉用具の給付と貸与制度が加わり、福祉用具の範囲も拡張し、また、ロボット産業政策として介護ロボットの開発も進められている。また、日本における介護ニーズの急増や人手不足、担い手の負担軽減や介護の質の確保・向上のための福祉用具の利活用が進められている。本講義では、福祉用具の定義と種類、知識や技術、利用者のADL等の改善や介護負担軽減などの福祉用具の役割や利活用について学ぶ。	
	医療情報概論		医療情報概論では、医療・福祉分野における情報管理と活用の基礎を学び、現代医療システムにおける情報技術の役割や、情報の適切な管理方法を理解する。医療情報には患者の診療記録や検査結果などが含まれ、治療やケアの質を高めるために不可欠である。この科目では、電子カルテ（EHR）の基本構造や運用方法、プライバシー保護の対策を学ぶ。電子カルテは情報の一元化やデータ共有を可能にし、医療の質向上に寄与する。また、医療情報のセキュリティとプライバシー保護の重要性も扱い、適切な保護手段や情報漏洩リスクについて理解を深める。さらに、医療情報の標準化や情報共有の重要性について学び、国際標準規格（例：HL7、DICOM）や地域連携ネットワークの活用方法を理解する。この科目を修了することで、医療情報の基本的な概念やその重要性を理解し、実践に応用できるスキルを身につける。	
	医療情報システム論		医療情報システム論は、医療・介護分野の情報システムの設計、導入、運用に関する理論と実践を学ぶ。医療情報システムは、医療の質と安全を向上させ、業務の効率化に不可欠である。この科目では、電子カルテやオーダエントリシステムなどの基本構造を学び、各部門システム間の相互関係を理解する。さらに、システムの選定から運用テスト、ユーザートレーニングに至る導入プロセスを詳しく学習し、コストや導入スケジュール、スタッフの習熟度などの考慮点を検討する。システム運用と保守についても触れ、パフォーマンスモニタリングやメンテナンス、障害対応の方法を学ぶ。加えて、医療情報システムの安全管理に関するガイドラインに基づき、セキュリティとプライバシー保護の重要性を強調し、安全なシステム運用についても学ぶ。全体として、医療情報システムの全貌を把握し、実践的な知識を身につけることを目指す。	

	医療ＤＸ・福祉経営の基礎	情報リテラシー		情報リテラシーは、現代社会において情報を効果的に収集、評価、活用する能力を養成する。特に医療・介護福祉分野では、正確な情報の選別と活用が求められる。授業では、インターネットやデータベースを用いて迅速かつ正確に情報を収集する技術を学び、法規制やガイドラインの更新に対応する力を育成する。また、収集した情報の信頼性を評価するスキルも重視されている。誤った情報やバイアスを避けるため、信頼できる情報源の選別方法を修得する。さらに、プレゼンテーションや文書作成、表計算ソフトの活用法を学び、効果的なコミュニケーション能力を養う。倫理的な問題についても学び、個人情報保護や情報の適正利用について理解を深めることで、トラブルの未然防止を目指す。この科目を修了することで、情報に基づく意思決定を行い、医療・介護福祉の実務に貢献できる力を身につけることを目指す。	
		地域医療連携とチーム医療		超高齢社会となった我が国の地域医療政策における重要な基本概念である「地域包括ケアシステム」を理解し、患者を中心としたその人らしい生活の支援を可能にするチーム医療を担う専門職の役割と機能について理解する。それらの理解をもとに、地域住民の健康福祉に貢献するための多職種連携のしくみづくりやチームによるサービス供給のマネジメントについて学ぶ。	
		地域活性化と地域医療		地域の抱える医療の問題点を考察し、そのための解決策である、活性化策を共同で考察することを目的とする。これまで修得した基礎科目（福祉介護関連および社会科学の経済学、経営学、マーケティング、会計学関連科目）の知識を有機的に活用させ、地域医療の重層的課題の抽出と解決策を策定させる。これにより習得済み科目の有用性と応用性を理解させ、今後の就学の方向性を学生が見出せるよう指導する。授業では基礎的理論を理解させるため、講義にて核心的視点や解析の方法論を説明し、実践的事例を題材にケーススタディを実施し、この後アクティブ･ラーニングが可能なように自らの解決策を構築できるよう問題解決型学習（ＰＢＬ）を実施し課題の抽出と解決策を討論できるよう指導する。	
		福祉サービスの組織と経営	○	ソーシャルワークにおいて必要となる、福祉サービスを提供する組織や団体の概要について理解し、経営の視点と方法を理解することをねらいとする。主に、①福祉サービスの成り立ちから、福祉領域における組織や経営の概念と法制度や、組織と経営の基礎理論について学ぶ。②福祉サービスの管理運営の具体的な方法、財政運営の現状、組織形態の関係性における現状など、現場での実践事例等も含めて、人事管理、労務管理、会計・財務管理、情報管理などについて理解する。	
		介護施設経営		福祉と経営はこれまで、あまり結び付けて考えられることはなかった。それは「福祉は人のため、経営はお金のため」という印象が強かったからかもしれない。しかし近年は、福祉現場でも経営の知識・技術が求められ、高齢者や障がい者、子育て家庭などを対象とした新しいスタイルの福祉ビジネスも次々と登場している。この背景には、福祉だけあるいは経営だけではもはや解決できない課題があることを人々が認識するようになったことが挙げられる。このようなことから、福祉現場における経営のノウハウを学び、複雑・多様な問題の解決に取り組むことができる技能を身につける。	

ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	○	ソーシャルワークとは、社会福祉の目標を実現する実践活動の方法である。社会福祉の専門職である社会福祉士は、対人援助職としてその前提に利用者の自己実現に向けた深い理解と洞察、専門職としての倫理が必要とされる。本講義では、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲を学び、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークと総合的かつ包括的な支援と多職種連携について理解することを目的とする。	
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	○	ソーシャルワークとは何かの基本的な理解を踏まえて、ソーシャルワーカーとしての支援に必要とされる価値や倫理、支援の展開方法の基礎を学ぶ。具体的には、ソーシャルワークの定義や特徴、価値や倫理、ソーシャルワーク理論の発展を概観した上で、ミクロ・メゾを中心として具体的な支援方法を提示し、ジェネラリストアプローチとソーシャルワークの役割について考える。	
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	○	ソーシャルワークにおける人と環境の交互作用に関する理論や、ソーシャルワークの対象、さまざまな実践モデル、ソーシャルワークの過程とそれに係る知識や技術、ソーシャルワークの実際などについて学ぶ。ソーシャルワークとはどのようなものか、その展開についても学ぶ。また、ソーシャルワークの新しい概念や今日的課題も取り扱う。	
ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	○	多様化・複雑化する課題に対応するため、代表的なソーシャルワーク理論モデル（アプローチ・モデル）について学ぶとともに、事例を通してその理論モデルを用いた実践の展開を学び、ソーシャルワークの実践に必要な基礎知識と実践力を身につける。特に、社会生活モデルやナラティブ・アプローチを意識し、事例を通じて学ぶ。	
ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	○	ソーシャルワークの価値、知識、技術の基礎をおさえ、新しいアプローチ・モデルを用いた実践の展開を通して理解し、ソーシャルワークの実践力を身につける。そして、3年次に実施するソーシャルワーク実習Ⅰに活かしていく。特に、総合的かつ包括的な支援としてのジェネラリスト･ソーシャルワークを学ぶ。	
ソーシャルワークの理論と方法Ⅴ	○	精神障害および精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を学ぶとともに、当事者の家族やその関係性にも着目し、家族も対象たることを視野に入れた支援のありようについて学修する。さらには、多職種連携・多機関連携の方法について学び、精神保健福祉士の役割についても学修する。一連の学習過程では、ソーシャルワークが、個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性があることを踏まえていく。	
ソーシャルワークの理論と方法Ⅵ	○	精神障害および精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を学修するとともに、精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法や精神保健福祉士の役割について学ぶ。また、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法や個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解することを目指す。	

	精神医学と精神医療Ⅰ	○	代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。さらに、精神科病院等における専門治療の内容および特性について理解を目指すとともに、精神保健福祉士が、精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割について理解する。特に、①精神疾患総論(代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む)、②精神疾患の治療、③精神科医療機関の治療構造および専門病棟、を中心に学ぶ。	
	精神医学と精神医療Ⅱ	○	精神医学と精神医療Ⅰでの学びをもとに、今日、精神保健医療福祉における連携の重要性と精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解する。特に、①精神科治療における人権擁護、②精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士の役割、③精神医療と福祉および関連機関との間における連携の重要性、を中心に学ぶ。	
	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	○	現代の日本人を取り巻く環境は、これまでに例をみないほどの変化を見せており、心身の健康をいかに維持し、増進していくかという大きな課題を背負っている。本科目では、精神の健康についての基本的な考え方について理解するとともに、現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際および精神保健福祉士の役割について理解することを目指す。	
	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	○	近年では、精神保健に関わる諸課題やその支援のあり様は多様化している。本講義では、現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解するとともに、精神保健の保持・増進と発生予防のための支援および専門機関や関係職種の役割と連携について理解することを目指す。さらに、世界的な精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について考察する。	
	精神保健福祉の原理Ⅰ	○	「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷や障害者福祉の基本的枠組み、精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義やその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について理解し、幅広い視野から精神保健福祉の原理について学修する。	
	精神保健福祉の原理Ⅱ	○	歴史的に精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティを理解するとともに、精神保健福祉士の基本的枠組みと倫理綱領に基づく職責について理解することを目指す。さらに、近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性について理解し、幅広い視野から精神保健福祉の原理について学修する。	
	精神保健福祉制度論	○	精神障害者に関する法制度について学び、精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解することを目指す。さらに、生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解し、幅広い視野で援助場面で活用できるよう学修を進める。	

ソーシャルワークの理論と方法	精神障害リハビリテーション論	○	精神障害リハビリテーションの概念とプロセスや、精神保健福祉士の役割について学び、活用できることを目指す。さらに、精神障害リハビリテーションプログラムの知識を得て、援助場面で活用できるよう学修を進める。	
	スクールソーシャルワーク論	○	今日の学校教育現場にSSW を導入する意義とその必要性を学ぶ。SSWr.の価値と倫理、業務と役割、SSW の支援の理論と実際についてミクロレベルからメゾ、マクロレベルにわたって学ぶ。たとえば、子ども個人に対する直接的な支援のあり方から、不登校やいじめが起こる背景（学校・家庭・地域の情勢）とそれらに対する対応をはじめ、特別支援教育等についても広く学ぶ。	
	知覚・認知心理学		人の感覚・知覚等の機序およびその障害(感覚の種類と構造、感覚・知覚の基本的特性、視覚、聴覚、化学的感覚・体性感覚他、対象認知他、感覚・知覚の障害)、人の認知・思考等の機序およびその障害(認知の基本的特性、記憶のメカニズム；ワーキングメモリ・長期記憶・日常的記憶、注意のメカニズム、知識の表象と構造、問題解決と推論、認知・思考の障害)について学修する。	
	学習・言語心理学		人の行動が変化する過程(学習・行動領域の心理学、行動の測定と実験デザイン、生得性行動、レスポンデント（古典的）条件づけ、オペラント（道具的）条件づけ、強化随伴性、刺激性制御、高次の学習・行動)、言語の習得における機序(言語に関する理論と研究、語彙の獲得過程、文法能力の発達、言語の生物学的基礎と障害)について学修する。	
	感情・人格心理学		感情に関する理論および感情喚起の機序(感情の基礎、感情の生物学的基礎、感情の理論；古典的理論・基本的感情説と次元説、感情と行動、感情の測定)、感情が行動におよぼす影響(援助行動・共感性、感情の制御)、人格の概念および形成過程(人格の概念、知的機能の個人差、人格の形成と変容)、人格の類型・特性等(人格の理論、性格５因子論、人格の障害)について学修する。	
	神経・生理心理学		脳神経系の構造および機能(脳神経系の解剖、神経系の情報伝達、大脳皮質の機能局在、脳神経系機能の研究方法、神経の可塑性と環境の影響)、記憶，感情等の生理学的反応の機序(感覚・知覚と脳神経系、運動と脳神経系、記憶と脳神経系、感情と脳神経系、動機づけと脳神経系)、高次脳機能障害の概要(高次脳機能障害、精神疾患と脳神経系)について学修する。	
	社会・集団・家族心理学		対人関係並びに集団における人の意識および行動についての心の過程(社会的認知、社会的自己、対人関係・対人行動、コミュニケーション、集団・組織)、人の態度および行動(態度の機能と構造、説得による態度と行動の変化)、家族，集団および文化が個人におよぼす影響(家族の機能、家族内の関係、集団・組織の影響、文化の影響)について学修する。	

	障害者（児）心理学		身体障害，知的障害および精神障害の概要(身体障害、知的障害、精神障害：定義と分類・不安症関連・うつ病関連・精神病性障害・その他の精神障害・発達障害)、障害者・障害児の心理社会的課題および必要な支援(障害の生物・心理・社会モデル、障害受容過程、精神障害の心理学的メカニズム(異常心理学)の理論、医療分野における障害者・障害児の心理社会的課題および必要な支援、教育分野における障害者・障害児の心理社会的課題および必要な支援、福祉分野における障害者・障害児の心理社会的課題および必要な支援)について学修する。	
	司法・犯罪心理学		犯罪・非行、犯罪被害および家事事件についての基本的知識(司法・犯罪分野の制度・法律・職種、司法・犯罪分野での活動の倫理、各機関における活動、犯罪・非行の原因と支援、犯罪被害への支援、家事事件)、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援(司法・犯罪分野における心理学的アセスメント、司法・犯罪分野における心理学的援助、法と心理学)について学修する。	
	産業・組織心理学		職場における問題に対して必要な心理に関する支援(産業・組織心理学とは何か、産業・組織分野の制度・法律・職種、産業・組織分野での活動の倫理、作業改善・安全衛生、職業性ストレスとメンタルヘルス、人事・ヒューマンリソースマネジメント、キャリア形成、消費者行動、産業・組織分野における心理学的アセスメント、産業・組織分野における心理学的援助)、組織における人の行動(職場集団のダイナミックスとコミュニケーション、リーダーシップ理論、組織成員の心理と行動)について学修する。	
	関係行政論(心理)		法体系と公認心理師の理解(法体系と行政、公認心理師法の理解)、保健医療分野に関係する制度(保健医療分野の専門家と施設、保健医療分野の法律と政策)、福祉分野に関係する制度(福祉分野の専門家と施設、福祉分野の基本となる法律)、教育分野に関係する制度(教育分野の専門家と施設、教育分野の基本となる法律)、司法・犯罪分野に関係する制度(司法・犯罪分野の専門家と施設、司法・犯罪分野の基本となる法律)、産業・労働分野に関係する制度(産業・労働分野の専門家と施設、産業・労働分野の基本となる法律)について学修する。	
	医療的ケア		障害や慢性疾患を抱え生活する人の介護ニーズ・医療ニーズが複雑化・多様化・高度化してきている中で、そのニーズに対応していくためには、医療職だけではなく、他専門職にも医療的知識が求められている。社会福祉士および介護福祉士法の改正により、介護職にも一定の条件下で医療的ケア（喀痰吸引や経管栄養法等）が実施できるようになったことから、安全・安楽を意識した医療的ケア行為の実際を学修する。また、介護職が行える医療的行為の範囲は限定されており、その範囲を遵守しながら医療職との連携（報告・連絡・相談）の図り方、医療行為に必要な観察のポイントを修得することを目指す。	

	終末期ケアとソーシャルワーク		社会福祉が、人が生まれてから死んでいくまでの人生における様々な生活課題の解決を目指す取り組みであるとすれば、人生の最終段階としての終末期医療が、ソーシャルワークニーズの非常に高い実践場であることは自明である。本講義では、この人生の最終段階である終末期に焦点をあて、終末期医療におけるソーシャルワークについて講じる。緩和医療におけるソーシャルワークを柱に、人生の最終段階：終末期についての考察を深めていくことから、終末期医療の歴史と日本における展開、人生の最終段階の終末期にある対象者への理解、心理社会的ニーズについての実際、倫理的課題、医療チームと共に行う意思決定支援、死別ということ、遺族支援・グリーフワーク等、終末期医療におけるソーシャルワークについての実際を学び、その実践を志向することを意図する。	
	認知症ケア論		社会の中には多くの認知症を抱える人が存在している。認知症という病気の症状がその人であるかのような誤解の中で誤った対応が本人の混乱を招くことがある。人生の歩みの中で築かれたその人の暮らしを守り、認知症高齢者の生活を支援するために、認知症の病態を理解した上でその人らしさを追求できる対応について、事例を通して「疾病性」と「事例性（状況性）」を学修する。また、認知症の方が抱える生活の困難さを家族・地域とともに支える支援、研究として追求していける支援を目指す。	
	医療DXワークショップA		デジタルトランスフォーメーション（DX）とは、企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立することである。社会課題に対するDXの必要性とともに、日本における業界別のDX取り組み状況や国際比較から、DXの取り巻く環境を理解する。DXに関連した、デジタイゼーションやデジタライゼーションやIT化について基礎的な理解を目指す。わが国の医療制度におけるDXの重要性の高まりから、診療報酬で評価する社会的な背景について理解するとともに、実践的な医療DX事例を概説する。	
	医療DXワークショップB		医療現場において材料に付与されるJAN・GS1-128・GTINなど製品コードを知ると共に、医療制度下の管理手法を理解する。近年、自動レジや在庫管理に利活用されるRFID（Radio Frequency Identification）などの自動認識技術と製品コードの関連技術について概説し、実践的な管理技術の習得を目指す。 また、人の手によるデータ入力や処理を代替するロボット技術としてRPAが登場し、医療現場において利活用されている。RPAに代表されるノーコードプラットフォームの操作技術を習得し、電子カルテがおかれている閉域網システムとクラウドネイティブにおける実践的な活用事例を題材に、RPAを用いたデータ分析や管理技術について習得を目指す。	
	医療DXワークショップC		医療DXを推進する人材は、病院が抱える様々な課題に対して多職種との連携を通じて情報収集し、AIやロボティクス等の既に存在する技術を適切に活用することを立案し、効率的に解決するプロジェクトを担います。本講義では、経営戦略のための情報活用に関する代表的な手法（SWOT分析、VRIO分析等）を理解し、分析結果から既存技術を活用して解決する実践的なスキルを習得する。	

専門教育科目	医療ＤＸ・福祉管理運営の実践	経営管理論		医療施設経営の認識の基盤となる企業経営そのものに対する関心を高め、所属する組織とかかわる上で必要不可欠な知識を身につけ、経営管理の概念を理解する。基本的なマネジメント理論、組織論、財務管理、目標管理、サービス・マネジメント等を概説し、それらを統合した企業のマネジメントについて学ぶ。科目の後半ではケースメソッドを取り入れ、企業経営活動を分析し、経営管理上の課題を探求し、理論と対比させながら経営管理の理解を促すディスカッションを中心とした授業を行う。	
		人的資源管理論		医療機関や社会福祉施設において、対象者へ直接サービスを提供する専門人材は重要な資源であり、それらのマネジメントはサービス品質および顧客満足にかかわる経営上の重要な課題である。この授業では、組織における人材の育成およびマネジメントに関する役割や機能を理解するため、人的資源管理における諸理論とその応用、効果について学ぶ。	
		医療管理総論		医療の成り立ちとそれに関連する法規、制度、政策などを理解し、社会の中での医療の位置づけや役割、機能を踏まえ、医療業におけるマネジメントの意義や課題について考える。一般的な経営管理論から医療業のマネジメントに関連する経営理論を用いて、医療組織の提供するサービス財の価値と、その連鎖におけるそれぞれの局面でのマネジメントについての検討を行い、医療経営の視点で期待されるマネジメントのあり方についてイメージがもてるよう促す。	
		医療安全・臨床倫理		医療安全の体系と役割、機能について理解する。医療は人々の生命や健康を守ることを目的としており、安全であることは必須の前提である。しかしながら人は間違いを犯すものであり、人が行う行為によって成り立つ医療サービス場面においては、いかにそれを最小限に食い止めるかが重要である。この授業では、医療安全の原理と手法を学び、その中で守るべき対象者の人権について臨床倫理の視点から解説し、想定される課題に向き合うことのできる見識と態度を養う。	
		持続可能社会と地域医療福祉経営		既修科目の知識を活用し、営利・非営利の視点から地域社会と連携し、地域社会学的な視点で課題を解決することを理解する。前半は、持続可能な社会は、高齢化が進む地域社会の医療・福祉施設での公益志向を重視し、様々な部門で活動する人々と多様な価値観の中で、連帯して生活し共生志向を有することの大切さを説明する。後半は、事例を用い問題解決型学習（PBL）を実施し、事例の課題の抽出と解決策を議論させることで、主体性を育成させる。 （オムニバス方式/全15回） （23　加藤 敏文/7回） 「①持続可能な社会とは何か、②持続可能な地域社会像、③連携の関係づくりと地域社会、④持続可能な地域社会の形成①、⑤持続可能な地域社会の形成②、⑭先進事例研究：公益志向の地域社会、⑮先進事例研究：共生志向の地域社会」を担当する。 （14　伊藤　一/8回） 「⑥持続可能な地域社会の形成③、⑦地域医療経営の広報戦略、⑧医療の地域連携を基礎とした広報戦略事例研究、⑨CS Rを活用した病院経営、⑩地域医療機関のケアミックス型施設の経営戦略、⑪医療BSC経営による経営戦略の実現、⑫地域医療経営におけるBSC経営の事例、⑬ABC(アクティビティーベースドコスティング)を活用した価格設定の事例」を担当する。	オムニバス方式

	地域連携実践		本科目は企業実習（インターンシップ）科目である。医療福祉サービス活動を実習を通じ実際の場面で体得させ、具体的にその仕組みや内容、課題などを理解させることを目的に配置する。具体的には、医療福祉サービス活動を事務部門、販売・購買部門などで幅広く体験させ、その仕組み・人・物・金・情報の流れを全体的に把握する。また、医療福祉サービス活動とそれを取り巻く環境諸条件などの関連・影響を総合的・システム的に把握する。加えて、経営理念・戦略、経営者の指導力、情報処理システムなどの重要性を体験を通し認識する。	共同
	ソーシャル・ビジネス		ソーシャル・ビジネス（SB)とは、社会的課題を解決するために取り組まれている事業と定義され、めまぐるしい時代の変化と社会からのニーズと共に常に変化し続けている。医療や福祉業界をはじめ環境問題や貧困による格差問題、子育て支援や障がい者雇用など活動分野は多岐にわたる。この授業では幅広いSBの活動を網羅し、SBの基礎的な知識を学び、自ら社会課題の発見から問題解決までを一貫して提案できるようになることを目的とする。	
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	○	この科目は、ソーシャルワーク展開に必要な価値・知識・技術等の総合的な実践力を身に付ける重要な科目である。この演習Ⅰは、演習の導入の段階として位置づけられ、ソーシャルワーカーに必要な基礎的な技能を身につけるために展開する。この授業では、自己理解・他者理解を中核に置きつつ、基本的な面接技法や記録法をロールプレイ・グループワーク等を通して身につける。	共同
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	○	ソーシャルワーク演習Ⅱの授業内容は、以下の点がポイントとなる。 ①ソーシャルワークの展開過程について、事例等を通して実践的に理解する。その際に、社会生活モデルを意識していく。②演習Ⅰで修得した面接技術についてさらに発展させるために、総合的な面接技術の修得を目指し展開する。③ソーシャルワークの専門的援助技術を幅広く体系的に理解し、ソーシャルワーク実習に臨むために必要なコンピテンスを身につけるための実践的な内容で構成されている。④地域アセスメント能力を身につけるために、実際に対象地域に出向くフィールドワークを行い、体験的・実践的な学修を行う。	共同
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	○	ソーシャルワーク演習Ⅲでは、現代の日本における重要な福祉課題である、虐待（児童・障がい・高齢）・ひきこもり・ヤングケアラー・性的マイノリティ・貧困・認知症・終末ケア・災害等の困難事例検討を通して、各領域に固有な問題の把握および総合的・包括的なソーシャルワーク援助技術、さらに、個人の尊厳を基盤に置いた倫理的判断基準を学ぶ。また、演習Ⅱからの継続を受けて、地域共生社会の実現に向け個人の人権を尊重した地域支援について具体的なアプローチ方法、地域づくりについて理解を深める。その際、社会生活モデルを意識する。さらに、ソーシャルワーク実習Ⅰのためのソーシャルワーク実習指導Ⅱの科目とも連携を図りながら進めていく。	共同

ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習Ⅳ	○	ソーシャルワーク実習Ⅰにおける学生の個別的な体験を視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導等により、ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として修得できる学習機会を提供する。多様な実習先で実践されたソーシャルワーク実習Ⅰの事例報告を行い、技術や知識、価値観等を共有し、ジェネラリスト・ソーシャルワーカーに求められる多様な知識と技能を実践的に修得する。	共同
	ソーシャルワーク演習Ⅴ（精神）	○	本科目はソーシャルワーク実習Ⅱを行う前に学修を進める。ソーシャルワーク演習Ⅴ～Ⅵにおいて一体的に、①領域、②課題、③法制度・サービス、④援助技術について、精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む）を活用し、精神保健福祉士としての実際の思考と援助の過程における行為を想定し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得することを意図し演習を展開する。演習Ⅴにおいては、①領域（福祉サービスを必要とする人に対応する各相談機関、対応機関）と②課題（社会的排除、孤立等のマクロ的視点、依存症等のミクロ的視点）について学修する。取り上げるすべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する。	共同
	ソーシャルワーク演習Ⅵ（精神）	○	本科目はソーシャルワーク実習Ⅱを行う前に学修を進める。ソーシャルワーク演習Ⅴ～Ⅵにおいて一体的に、①領域、②課題、③法制度・サービス、④援助技術について、精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む）を活用し、精神保健福祉士としての実際の思考と援助の過程における行為を想定し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得することを意図し演習を展開する。演習Ⅵにおいては、③法制度・サービス（精神に関する法制度）と④援助技術（ソーシャルワークの展開過程を踏まえた各種療法等）について学修する。また、演習Ⅶにつなげていくために事例検討の方法についても学修する。取り上げるすべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する。	共同
	ソーシャルワーク演習Ⅶ（精神）	○	本科目はソーシャルワーク演習Ⅴ・Ⅵの積み上げの位置づけとしている。本科目では、様々な領域の事例検討を中核に、ソーシャルワーク実習Ⅱへ向け、精神保健福祉士としての実際の思考と援助の過程における行為を想定し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に修得することを意図し演習を展開する。取り上げるすべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する。特に、本科目では、医療機関、障害福祉サービス事業所、行政、社会福祉協議会における精神保健ソーシャルワーク実践について検討する。	共同

	スクールソーシャルワーク演習	○	学校における援助技術の展開について知識と技術を習得することを目的とし、具体事例を用いてソーシャルワーク援助や関係機関との連絡、調整のあり方等について学ぶ。また、教育委員会や市町村、学校内のシステムについて学ぶ。	
	心理演習		知識および技能の基本的な水準の修得を目的とし、次に掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技 （ロールプレイング）を行い事例検討で取り上げる。 1．心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識および技能の修得(①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援 2．心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成 3．心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ 4．多職種連携および地域連携 5．公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解	共同
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	○	ソーシャルワークや社会福祉士についての理解を深めるとともに、ソーシャルワーク実習Ⅰの意義や内容について確認しつつ実習準備を行っていく。具体的には、学生自身の動機・目的の確認、実習内容の理解、実習先の選択、実習に必須な知識の獲得・再整理を進める。体験学習も含め、その過程で学生自身が自身のソーシャルワークへの適性を考察し、ソーシャルワーカーに必要な態度や価値観への理解を深める。	共同
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	○	実習前においては、実習生として必要なソーシャルワークの価値や必要知識・技術を確認する。さらに、実習計画を学生、教員、実習先が協議しながら作成し、学生の実習目的・目標・課題を明確化する。実習中は、実践を媒介に教員と実習指導者が協力しながら、ソーシャルワークについて学生の理解を促進させ、実習目標の達成を目指す（巡回指導、帰校日指導、随時個別指導など）。実習後は、学生の実習体験を整理することにより、相談援助の知識と技術についての理解の深化につなげる。さらに、その過程において、学生が実習体験を考察し、ソーシャルワーカーとしての自身の課題に気づいていく。	共同
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（精神）	○	ソーシャルワーク実習Ⅱへ向け、実習に関わる個別指導および集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し 実践的な技術等を体得することを目指す。さらに、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目指す。特に、精神保健医療福祉の現状やソーシャルワーク支援の実際、実習施設の概要について、支援者や当事者の講話、施設見学なども含めながらより実践的に理解することを目指す。	共同
	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ（精神）	○	本科目はソーシャルワーク実習に関わる事前学修と事後学修から構成される。事前学修では、ソーシャルワーク実習指導Ⅲでの学びを活かし、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目指す。事後学修では、実習報告書のケースレポートの作成、実習報告会を通じて、具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目指す。	共同

ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習Ⅰ	○	ソーシャルワーク実習は、240時間以上にわたり指定された実習形態により、実習契約を締結した施設・機関の実践領域に配属されソーシャルワーカーである社会福祉士のスーパービジョンにより必要な価値・知識・技能等の実践力を身に付けることを目指し進行する。スーパービジョンの特徴は実習契約に則り実習プログラムを媒介としつつ、実習指導者および実習担当教員（実習巡回等）による2重のスーパービジョン構造により展開される。実習においては、実際に生活されている利用者および家族・関連職種・地域住民等と直接触れ合う機会が多い。事前に職業人として必要な社会スキルを身に付け適切に実践することが必要である。特に、ケース研究においては、対象者のプライバシー情報に直接触れることになる。常に、尊厳と人権意識の保持及び高いモチベーションを維持し実習に臨むことが求められる。実習に関わる全ての人々に対して謙虚さと感謝の気持ちを持つことが重要である。	共同
	ソーシャルワーク実習Ⅱ（精神）	○	210時間以上の配属実習を通じて、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に関わる専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得することを目指す。また、精神障害者が置かれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。さらには、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得することを目指す。	共同
	スクールソーシャルワーク実習指導	○	スクールソーシャルワーク実習の意義や学校・教育現場・自治体の子ども相談体制を知り、学校組織や福祉を含む他領域との連携を体験的に学ぶ。また、スクールソーシャルワーク実習に向けて、教育の場で活躍できるソーシャルワーカーとして求められる資質・知識・技能・倫理などについて深く学修する。	
	スクールソーシャルワーク実習	○	学校現場や関連機関での実習をとおして、教育現場や児童生徒の現状を理解し、児童生徒の教育と生活を保障するために、教師との連携やSSWr.としてあるべき姿（機能や役割）等について学ぶ。実習先としては、学校だけではなく、教育委員会、適応指導教室等も想定されている。学校現場での実習指導は、SSWr.による指導以外に、教育相談担当教員や生徒指導担当教員、同和教育担当者等による指導が考えられる。また、実習内容についても、ソーシャルワーク以外に児童生徒の教育に関することや学校の管理・運営等幅広い。	
	心理実習		保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者または教員による指導を受ける。（医療機関での実習を必須とし、医療機関以外の施設での実習については適宜行う。） 実施に際しては以下の内容を含む。 1. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ 2. 多職種連携及び地域連携 3. 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解	共同

	総合科目	基礎演習	○	毎週1回、大学教育の基礎的な学び方を知る。文献や資料の調べ方、レポートの作成方法、プレゼンテーション等の基礎的な学修手法を、少人数の演習形式で学んでいく。特に、2年次から増していく専門的な学修に備えるために、学びの手法を獲得していく。また、フィールドワークセンターと連携をして、社会福祉施設などでの体験学習を行い、2年次以降の学修に向けた意識向上を図っていく。	共同
		専門演習Ⅰ	○	専門演習Ⅰでは、学生各々の目指す進路・資格に向けてこれまでの学びを統合し、自身の未来のテーマを見出す主体的な取り組みを支援する。週1回、少人数によるゼミナール授業を行う。4年次における専門演習Ⅱ(卒業レポート作成)に向けて、テーマをより明確化し、研究の社会的意義を明らかにするために文献調査(研究)を行ったり、より正確で説得力のあるデータ収集(調査研究)をフィールド調査や統計処理等を使って行う。	共同
		専門演習Ⅱ	○	専門演習Ⅱでは、専門演習Ⅰから継続し、各々の目指す進路・資格に向けて大学での学びを統合し、学生個々が取り組む研究、調査のプロセスを支援する。原則毎週1回、少人数によるゼミナール授業を行う。専門演習Ⅰで行った研究内容について精査し、自身の関心をより明確化する。研究の社会的意義を明らかにし、より正確で説得力のあるデータ収集のために文献調査、フィールド調査や統計処理等を行ない、卒業レポートとしてまとめる。	共同
		卒業研究	○	この科目では、各自の研究テーマに基づき、卒業論文を作成する。4年間の学修成果を形式知に昇華させることを目的とする。そのために、専門演習Ⅰで培ってきた基礎的研究成果を元に、研究計画作成、データ取得、議論、などを行い、研究内容を論文としてまとめ上げる。前期末に研究内容の途中経過、学年末に作成した論文の発表を行う。	共同

（注）

1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。

2　専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が４０人を超えることを想定するものについては，その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。

3　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

4　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

学校法人日本医療大学 学部等の設置認可等に関わる組織の移行表

令和７年度	入学定員	編入学定員	収容定員	**令和８年度**	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
日本医療大学				**日本医療大学**				
保健医療学部				保健医療学部				
看護学科	150	－	600	看護学科	150	－	600	
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科	140	－	560	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科	140	－	560	
理学療法学専攻	100	－	400	理学療法学専攻	100	－	400	
作業療法学専攻	40	－	160	作業療法学専攻	40	－	160	
診療放射線学科	100	－	400	診療放射線学科	100	－	400	
臨床検査学科	60	－	240	臨床検査学科	60	－	240	
臨床工学科	60	－	240	臨床工学科	60	－	240	
				ヒューマンデザイン学部				学部の設置（届出）
				医療 DX ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	40	－	160	学科の設置（届出）
				共生社会デザイン学科	80	－	320	学科の設置（届出）
総合福祉学部				総合福祉学部				学部の廃止
介護福祉ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	40	－	160	介護福祉ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	0	－	0	令和８年４月学生募集停止
ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ学科	80	－	320	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ学科	0	－	0	令和８年４月学生募集停止
通信教育部				通信教育部				
総合福祉学部		3年次		総合福祉学部		3年次		
ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ学科	100	100	600	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ学科	100	100	600	
計	730	100	3,120	計	730	100	3,120	
日本医療大学大学院				日本医療大学大学院				
保健医療学研究科				保健医療学研究科				
保健医療学専攻（M）	6	－	12	保健医療学専攻（M）	6	－	12	
計	6	－	12	計	6	－	12	